

# 平坦時空での重力

中嶋 慧

October 20, 2021

## Contents

1	はじめに	2
2	質点の運動方程式	2
2.1	設定	2
2.2	作用原理	3
2.3	パラメーターの同定	4
3	エネルギー・運動量テンソル	5
4	重力場の作用	6
4.1	重力場の運動方程式	6
4.2	重力場の作用の不変性	6
4.3	$h_{\mu\nu}$ の微分を含まない作用	7
4.4	$h_{\mu\nu}$ の1階微分の2次式からなる作用	8
4.5	アインシュタイン方程式	10
5	「物質場」の作用	10
6	コメント	11
6.1	光線の運動方程式	11
6.2	一般座標	11
6.3	疑問	13
6.4	変換(4.6)の意味	14
7	重力場の作用：低次からの構成。金星人の計算	15
7.1	一般論	15
7.2	最低次のラグランジアン密度	16
7.3	$h_{\mu\nu}$ の3次のラグランジアン密度	17
7.4	$h_{\mu\nu}$ の3次のラグランジアン密度：具体的な計算	20
8	アインシュタイン作用の展開	25

# 1 はじめに

一般相対論は曲がった時空についての理論である。計量は  $g_{\mu\nu}$  で表させる<sup>1)</sup>。計量から作られる曲率 (リーマン接続の曲率) を  $R^\alpha_{\beta\mu\nu}[g]$  とすると、一般に  $R^\alpha_{\beta\mu\nu}[g] \neq 0$  である。

一方、ファインマンの重力理論 [1-6] では時空は平坦だと考える。つまり、計量を  $\eta_{\mu\nu}$  とするとき、 $R^\alpha_{\beta\mu\nu}[\eta] = 0$  である。適当な座標系を選べば全領域で、 $\eta_{\mu\nu} = \text{diag}(-1, 1, 1, 1)$  とできる。重力場は対称 2 階テンソル  $h_{\mu\nu}$  で表させる。ファインマンの理論では、重力場  $h_{\mu\nu}$  は、結果的に、

$$g_{\mu\nu} := \eta_{\mu\nu} + h_{\mu\nu} \quad (1.1)$$

の組み合わせでのみ現れる。この  $g_{\mu\nu}$  が一般相対論での計量に対応する。

ファインマンは、量子電磁力学などの場の理論は知っているが、一般相対論は知らない金星人の立場になって、重力理論を作る事を考えた。この立場を以下、「金星人の」立場と呼ぶ。

§2 では、質点の運動方程式を議論する。質点の運動方程式から、質点のエネルギー・運動量テンソルが満たすべき式 (これを (A) と呼ぶ) が分かる (§3)。

次に、重力場  $h_{\mu\nu}$  の方程式を考える。金星人は、まずは  $h_{\mu\nu}$  の 2 次のラグランジアン密度を探さう。しかし、ラグランジアン密度が 2 次のみだと (A) と矛盾する。よって、 $h_{\mu\nu}$  の 3 次のラグランジアン密度を加える必要がある。それでもまだ (A) と矛盾するので、4 次, 5 次, ... の項を加える必要があり、結局無限次まで考える必要がある。この議論は §7 で行う。また、3 次のラグランジアン密度は §7.3 と §7.4 で決定する。これは大変な計算である。

この記事では金星人の計算をする前に、いきなり正しい結果を与える (§4)。金星人が追い求めた  $h_{\mu\nu}$  の無限次のラグランジアン密度は、アインシュタインのそれであることが分かる。

§5 では、「物質場」(電磁場, ゲージ場を含む) と重力場との結合を見る。

§6 では、ファインマンの重力理論についてコメントする。

§7 では、金星人の計算をする。 $h_{\mu\nu}$  の 2 次のラグランジアン密度  $\mathcal{L}^{(2)}$  を求める。また、 $n$  次のラグランジアン密度を決定する方法を述べる。3 次のラグランジアン密度  $\mathcal{L}^{(3)}$  は §7.3 と §7.4 で決定する。

ところで、2 次のラグランジアン密度  $\mathcal{L}^{(2)}$  では (例えば水星の) 近日点移動の大きさを上手く説明できない。近日点移動を正しく求めるには 3 次の効果  $\mathcal{L}^{(3)}$  が必要である。

§8 では、アインシュタインのラグランジアン密度を  $h_{\mu\nu}$  について展開する。

この記事では、§6 以外は、計量が  $\eta_{\mu\nu} = \text{diag}(-1, 1, 1, 1)$  となる座標系を採用する。

## 2 質点の運動方程式

### 2.1 設定

ミンコフスキー時空について考える。つまり、計量テンソルは、

$$\eta_{\mu\nu} = \text{diag}(-1, 1, 1, 1) \quad (2.1)$$

であるとする。

重力場は 2 階対称テンソル  $h_{\mu\nu}$  であると考え<sup>2)</sup>。

<sup>1)</sup> 符号は  $(-+++)$  とする。また、ギリシャ小文字の添え字は 0, 1, 2, 3 を表す。

<sup>2)</sup> ファインマンの教科書 [1] には、なぜ 2 階対称テンソルなのかの解説もあるが、この記事では省略する。

質点系と重力場の合成系の作用は以下であると仮定する:

$$S = S_{\text{particle}} + S_{\text{int}} + S_{\text{Gravity}}, \quad (2.2)$$

$$S_{\text{particle}} = \sum_a \frac{m_a}{2} \int d\lambda_a \left[ e_a(\lambda_a) \eta_{\mu\nu} \frac{dz_a^\mu}{d\lambda_a} \frac{dz_a^\nu}{d\lambda_a} - \frac{c^2}{e(\lambda_a)} \right], \quad (2.3)$$

$$S_{\text{int}} = \sum_a \frac{g_a}{2} \int d\lambda_a e_a(\lambda_a) h_{\mu\nu}(z_a) \frac{dz_a^\mu}{d\lambda_a} \frac{dz_a^\nu}{d\lambda_a}. \quad (2.4)$$

$m_a$  は質量で、 $g_a$  は結合定数である。 $e_a$  は補助場で、 $\lambda_a$  はパラメーターである<sup>3)</sup>。重力場の作用  $S_{\text{Gravity}}$  は後で決定する。パラメーターの変換で  $e_a$  は1とできる。 $e_a$  が1となるパラメーターを  $\tau_a$  とすると、

$$S_{\text{particle}} = \sum_a \frac{m_a}{2} \int d\tau_a \left[ \eta_{\mu\nu} \frac{dz_a^\mu}{d\tau_a} \frac{dz_a^\nu}{d\tau_a} - c^2 \right], \quad (2.5)$$

$$S_{\text{int}} = \sum_a \frac{g_a}{2} \int d\tau_a h_{\mu\nu}(z_a) \frac{dz_a^\mu}{d\tau_a} \frac{dz_a^\nu}{d\tau_a}. \quad (2.6)$$

を得る。 $S_{\text{particle}}$  の第2項は変分に効かないので、以下では落とし、それを  $\tilde{S}_{\text{particle}}$  とする。

## 2.2 作用原理

質点についての作用は、

$$S_p := \tilde{S}_{\text{particle}} + S_{\text{int}} = \sum_a \frac{m_a}{2} \int d\tau_a \left( \eta_{\mu\nu} + \frac{g_a}{m_a} h_{\mu\nu}(z_a) \right) \frac{dz_a^\mu}{d\tau_a} \frac{dz_a^\nu}{d\tau_a} \quad (2.7)$$

である。今、

$$g_{\mu\nu}^{(a)} := \eta_{\mu\nu} + \frac{g_a}{m_a} h_{\mu\nu} \quad (2.8)$$

とすると、

$$S_p = \sum_a \frac{m_a}{2} \int d\tau_a g_{\mu\nu}^{(a)}(z_a) \frac{dz_a^\mu}{d\tau_a} \frac{dz_a^\nu}{d\tau_a} \quad (2.9)$$

であり、

$$\begin{aligned} \delta S_p &= \sum_a \frac{m_a}{2} \int d\tau_a \left( \delta g_{\mu\nu}^{(a)}(z_a) \frac{dz_a^\mu}{d\tau_a} \frac{dz_a^\nu}{d\tau_a} + 2g_{\mu\nu}^{(a)}(z_a) \frac{d\delta z_a^\mu}{d\tau_a} \frac{dz_a^\nu}{d\tau_a} \right) \\ &= \sum_a \frac{m_a}{2} \int d\tau_a \delta z_a^\lambda \left( \partial_\lambda g_{\mu\nu}^{(a)}(z_a) \frac{dz_a^\mu}{d\tau_a} \frac{dz_a^\nu}{d\tau_a} - \frac{d}{d\tau_a} \left[ 2g_{\lambda\nu}^{(a)}(z_a) \frac{dz_a^\nu}{d\tau_a} \right] \right) \\ &= \sum_a \frac{m_a}{2} \int d\tau_a \delta z_a^\lambda \left( \partial_\lambda g_{\mu\nu}^{(a)}(z_a) \frac{dz_a^\mu}{d\tau_a} \frac{dz_a^\nu}{d\tau_a} - 2\partial_\mu g_{\lambda\nu}^{(a)}(z_a) \frac{dz_a^\mu}{d\tau_a} \frac{dz_a^\nu}{d\tau_a} - 2g_{\lambda\nu}^{(a)}(z_a) \frac{d^2 z_a^\nu}{d\tau_a^2} \right) \\ &= \sum_a \frac{m_a}{2} \int d\tau_a \delta z_a^\lambda \cdot (-2) \left( \frac{1}{2} \left[ -\partial_\lambda g_{\mu\nu}^{(a)} + \partial_\mu g_{\lambda\nu}^{(a)} + \partial_\nu g_{\lambda\mu}^{(a)} \right] \frac{dz_a^\mu}{d\tau_a} \frac{dz_a^\nu}{d\tau_a} + g_{\lambda\nu}^{(a)}(z_a) \frac{d^2 z_a^\nu}{d\tau_a^2} \right) \end{aligned} \quad (2.10)$$

<sup>3)</sup>  $\lambda_a \rightarrow \lambda'_a$  で、 $e_a \rightarrow e'_a = \frac{d\lambda'_a}{d\lambda_a} e_a$  である。

となる。よって、

$$g_{\lambda\nu}^{(a)}(z_a) \frac{d^2 z_a^\nu}{d\tau_a^2} + \frac{1}{2} [-\partial_\lambda g_{\mu\nu}^{(a)} + \partial_\mu g_{\lambda\nu}^{(a)} + \partial_\nu g_{\lambda\mu}^{(a)}] \frac{dz_a^\mu}{d\tau_a} \frac{dz_a^\nu}{d\tau_a} = 0 \quad (2.11)$$

を得る。これは、

$$\left( \eta_{\lambda\nu} + \frac{g_a}{m_a} h_{\lambda\nu}(z_a) \right) \frac{d^2 z_a^\nu}{d\tau_a^2} + \frac{1}{2} \frac{g_a}{m_a} [-\partial_\lambda h_{\mu\nu} + \partial_\mu h_{\lambda\nu} + \partial_\nu h_{\lambda\mu}] \frac{dz_a^\mu}{d\tau_a} \frac{dz_a^\nu}{d\tau_a} = 0 \quad (2.12)$$

である<sup>4)</sup>。

ところで、等価原理より、

$$\frac{g_a}{m_a} = 1 \quad (2.13)$$

である [3]。よって、

$$g_{\mu\nu} := \eta_{\mu\nu} + h_{\mu\nu} \quad (2.14)$$

とすると、

$$g_{\lambda\nu}(z_a) \frac{d^2 z_a^\nu}{d\tau_a^2} + \frac{1}{2} [-\partial_\lambda g_{\mu\nu} + \partial_\mu g_{\lambda\nu} + \partial_\nu g_{\lambda\mu}] \frac{dz_a^\mu}{d\tau_a} \frac{dz_a^\nu}{d\tau_a} = 0 \quad (2.15)$$

である。今、

$$\Gamma_{\lambda\mu\nu} := \frac{1}{2} [-\partial_\lambda g_{\mu\nu} + \partial_\mu g_{\lambda\nu} + \partial_\nu g_{\lambda\mu}] \quad (2.16)$$

と置くと、

$$g_{\lambda\nu}(z_a) \frac{d^2 z_a^\nu}{d\tau_a^2} + \Gamma_{\lambda\mu\nu}(z_a) \frac{dz_a^\mu}{d\tau_a} \frac{dz_a^\nu}{d\tau_a} = 0 \quad (2.17)$$

である。

## 2.3 パラメーターの同定

ところで、

$$C(\tau) := g_{\mu\nu} \frac{dz_a^\mu}{d\tau} \frac{dz_a^\nu}{d\tau} \quad (2.18)$$

---

<sup>4)</sup> 重力場が弱いとし、 $h_{\mu\nu}$  の 2 次より高次が無視できるなら、 $\eta_{\lambda\nu} + \frac{g_a}{m_a} h_{\lambda\nu}(z_a)$  の逆行列は、

$$\eta^{\mu\nu} - \frac{g_a}{m_a} \eta^{\mu\alpha} \eta^{\nu\beta} h_{\alpha\beta}(z_a)$$

であり、(2.12) は、

$$\frac{d^2 z_a^\lambda}{d\tau_a^2} + \eta^{\lambda\sigma} \frac{1}{2} \frac{g_a}{m_a} [-\partial_\sigma h_{\mu\nu} + \partial_\mu h_{\sigma\nu} + \partial_\nu h_{\sigma\mu}] \frac{dz_a^\mu}{d\tau_a} \frac{dz_a^\nu}{d\tau_a} \approx 0$$

となる。

とすると、

$$\begin{aligned}
\frac{dC}{d\tau} &= \partial_\lambda g_{\mu\nu} \frac{dz^\lambda}{d\tau} \frac{dz^\mu}{d\tau} \frac{dz^\nu}{d\tau} + 2g_{\mu\nu} \frac{dz^\mu}{d\tau} \frac{d^2 z^\nu}{d\tau^2} \\
&= \partial_\lambda g_{\mu\nu} \frac{dz^\lambda}{d\tau} \frac{dz^\mu}{d\tau} \frac{dz^\nu}{d\tau} - 2\Gamma_{\mu\lambda\nu}(z_a) \frac{dz^\mu}{d\tau} \frac{dz^\lambda}{d\tau} \frac{dz^\nu}{d\tau} \\
&= 0
\end{aligned} \tag{2.19}$$

である。よって、 $C$ は定数である。 $\tau$ は、

$$g_{\mu\nu} \frac{dz^\mu}{d\tau} \frac{dz^\nu}{d\tau} = -c^2 \tag{2.20}$$

を満たす。これは、 $e(\tau)$  についてのオイラー・ラグランジュ方程式とも一致する。このとき、

$$S_{\text{particle}} + S_{\text{int}} = - \sum_a m_a c^2 \int d\tau_a \tag{2.21}$$

となる。

### 3 エネルギー・運動量テンソル

今、

$$\mathbf{T}_{(\text{p})}^{\mu\nu}(x) := \sum_a m_a \int d\tau_a \delta^4(x - z_a) \frac{dz_a^\mu}{d\tau_a} \frac{dz_a^\nu}{d\tau_a} \tag{3.1}$$

とすると、

$$S_{\text{int}} = \int d^4x \frac{1}{2} h_{\mu\nu}(x) \mathbf{T}_{(\text{p})}^{\mu\nu}(x) \tag{3.2}$$

となる。 $\mathbf{T}_{(\text{p})}^{\mu\nu}$  は質点系のエネルギー・運動量テンソルである。

ところで、

$$\begin{aligned}
\partial_\nu \mathbf{T}_{(\text{p})}^{\mu\nu} &= \sum_a m_a \int d\tau_a \partial_\nu \delta^4(x - z_a) \frac{dz_a^\mu}{d\tau_a} \frac{dz_a^\nu}{d\tau_a} \\
&= \sum_a m_a \int d\tau_a (-1) \frac{d\delta^4(x - z_a)}{d\tau_a} \frac{dz_a^\mu}{d\tau_a} \\
&= \sum_a m_a \int d\tau_a \delta^4(x - z_a) \frac{d^2 z_a^\mu}{d\tau_a^2}
\end{aligned} \tag{3.3}$$

であるから、

$$\begin{aligned}
g_{\lambda\mu} \partial_\nu \mathbf{T}_{(\text{p})}^{\mu\nu} &= \sum_a m_a \int d\tau_a \delta^4(x - z_a) g_{\lambda\mu}(z_a) \frac{d^2 z_a^\mu}{d\tau_a^2} \\
&= \sum_a m_a \int d\tau_a \delta^4(x - z_a) \left[ -\Gamma_{\lambda\mu\nu}(z_a) \frac{dz_a^\mu}{d\tau_a} \frac{dz_a^\nu}{d\tau_a} \right] \\
&= -\Gamma_{\lambda\mu\nu}(x) \sum_a m_a \int d\tau_a \delta^4(x - z_a) \frac{dz_a^\mu}{d\tau_a} \frac{dz_a^\nu}{d\tau_a} \\
&= -\Gamma_{\lambda\mu\nu}(x) \mathbf{T}_{(\text{p})}^{\mu\nu}(x)
\end{aligned} \tag{3.4}$$

となる。質点の運動方程式 (2.17) を用いた。整理すると、

$$g_{\lambda\mu}\partial_\nu\mathbf{T}_{(p)}^{\mu\nu} = -\Gamma_{\lambda\mu\nu}\mathbf{T}_{(p)}^{\mu\nu} \quad (3.5)$$

である。

質点と重力場と、ゲージ場などのその他の場との合成系のラグランジアン密度を、

$$S_{\text{tot}} = S_{\text{particle}} + \int d^4x \frac{1}{2}h_{\mu\nu}(x)\mathbf{T}_{(p)}^{\mu\nu}(x) + S_{\text{Gravity}} + S_{\text{matter}} \quad (3.6)$$

とする。\$S\_{\text{matter}}\$ の \$h\_{\mu\nu}\$ についての変分を、

$$\delta S_{\text{matter}} = \int d^4x \delta h_{\mu\nu}(x) \frac{1}{2}\mathbf{T}_{(m)}^{\mu\nu} \quad (3.7)$$

で定義し、

$$\mathbf{T}^{\mu\nu} := \mathbf{T}_{(p)}^{\mu\nu} + \mathbf{T}_{(m)}^{\mu\nu} \quad (3.8)$$

と置く。\$\mathbf{T}^{\mu\nu}\$ も (3.5) を満たすと仮定する：

$$g_{\lambda\mu}\partial_\nu\mathbf{T}^{\mu\nu} = -\Gamma_{\lambda\mu\nu}\mathbf{T}^{\mu\nu}. \quad (3.9)$$

## 4 重力場の作用

### 4.1 重力場の運動方程式

今、\$S\_{\text{Gravity}}\$ の \$h\_{\mu\nu}\$ についての変分を、

$$\delta S_{\text{Gravity}} = - \int d^4x \delta h_{\mu\nu}(x) \frac{1}{2\kappa}\mathbf{G}^{\mu\nu} \quad (4.1)$$

とすると、重力場の運動方程式は、

$$\mathbf{G}^{\mu\nu} = \kappa\mathbf{T}^{\mu\nu} \quad (4.2)$$

となる。\$\kappa\$ は定数 (アインシュタイン定数) である。

### 4.2 重力場の作用の不変性

(3.9), (4.2) より、

$$g_{\lambda\mu}\partial_\nu\mathbf{G}^{\mu\nu} + \Gamma_{\lambda\mu\nu}\mathbf{G}^{\mu\nu} = 0 \quad (4.3)$$

が従う。

上式に  $\varepsilon^\lambda$  をかけて積分すると、

$$\begin{aligned}
0 &= \int d^4x \left[ g_{\lambda\mu} \partial_\nu \mathbf{G}^{\mu\nu} + \Gamma_{\lambda\mu\nu} \mathbf{G}^{\mu\nu} \right] \varepsilon^\lambda \\
&= \int d^4x \left[ -\partial_\nu (g_{\lambda\mu} \varepsilon^\lambda) \mathbf{G}^{\mu\nu} + \Gamma_{\lambda\mu\nu} \mathbf{G}^{\mu\nu} \varepsilon^\lambda \right] \\
&= \int d^4x \mathbf{G}^{\mu\nu} \frac{1}{2} \left[ -\partial_\nu g_{\lambda\mu} \varepsilon^\lambda - \partial_\mu g_{\lambda\nu} \varepsilon^\lambda + 2\Gamma_{\lambda\mu\nu} \varepsilon^\lambda - g_{\lambda\mu} \partial_\nu \varepsilon^\lambda - g_{\lambda\nu} \partial_\mu \varepsilon^\lambda \right] \\
&= \int d^4x \mathbf{G}^{\mu\nu} \left( -\frac{1}{2} \right) \left[ \partial_\lambda g_{\mu\nu} \varepsilon^\lambda + g_{\lambda\mu} \partial_\nu \varepsilon^\lambda + g_{\lambda\nu} \partial_\mu \varepsilon^\lambda \right] \\
&\equiv \int d^4x \mathbf{G}^{\mu\nu} \left( -\frac{1}{2} \right) \delta^{(\varepsilon)} h_{\mu\nu}
\end{aligned} \tag{4.4}$$

を得る。  $\varepsilon^\mu$  は無限遠で0になるとした。ここで、

$$\delta^{(\varepsilon)} h_{\mu\nu} := \partial_\lambda g_{\mu\nu} \varepsilon^\lambda + g_{\lambda\mu} \partial_\nu \varepsilon^\lambda + g_{\lambda\nu} \partial_\mu \varepsilon^\lambda \tag{4.5}$$

である。(4.4) は、

$$h_{\mu\nu} \rightarrow h_{\mu\nu} + \delta^{(\varepsilon)} h_{\mu\nu} \tag{4.6}$$

で  $S_{\text{Gravity}}$  が不変であることを意味する。以下では、特に、  $\varepsilon^\mu$  が無限小として、上の変換で不変な作用を探す。

### 4.3 $h_{\mu\nu}$ の微分を含まない作用

今、

$$g := \det(g_{\mu\nu}) \tag{4.7}$$

とすると、

$$\delta g = g g^{\mu\nu} \delta g_{\mu\nu} \tag{4.8}$$

である。ここで、  $g^{\mu\nu}$  は  $g_{\mu\nu}$  の逆行列である。よって、

$$\begin{aligned}
\delta(-g)^\alpha &= \alpha(-g)^{\alpha-1} (-g g^{\mu\nu} \delta g_{\mu\nu}) \\
&= \alpha(-g)^\alpha g^{\mu\nu} \delta g_{\mu\nu}
\end{aligned} \tag{4.9}$$

である。  $\delta g_{\mu\nu} = \delta^{(\varepsilon)} g_{\mu\nu} = \delta^{(\varepsilon)} h_{\mu\nu}$  として、

$$\begin{aligned}
\delta^{(\varepsilon)}(-g)^\alpha &= \alpha(-g)^\alpha g^{\mu\nu} (\partial_\lambda g_{\mu\nu} \varepsilon^\lambda + g_{\lambda\mu} \partial_\nu \varepsilon^\lambda + g_{\lambda\nu} \partial_\mu \varepsilon^\lambda) \\
&= \alpha(-g)^\alpha (g^{-1} \partial_\lambda g \varepsilon^\lambda + 2\partial_\mu \varepsilon^\mu) \\
&= \varepsilon^\mu \partial_\mu (-g)^\alpha + 2\alpha(-g)^\alpha \partial_\mu \varepsilon^\mu
\end{aligned} \tag{4.10}$$

を得る。よって、  $\alpha = 1/2$  の時は、

$$\delta^{(\varepsilon)} \sqrt{-g} = \partial_\mu (\varepsilon^\mu \sqrt{-g}) \tag{4.11}$$

となる。従って、

$$S_\Lambda := -\frac{\Lambda}{\kappa} \int d^4x \sqrt{-g} \tag{4.12}$$

は作用の候補である。  $\Lambda$  は宇宙定数である。

#### 4.4 $h_{\mu\nu}$ の1階微分の2次式からなる作用

$$\Gamma^\lambda_{\mu\nu} := g^{\lambda\sigma}\Gamma_{\sigma\mu\nu}, \quad (4.13)$$

$$B^\mu_{\lambda\alpha\beta} := \partial_\alpha\Gamma^\mu_{\lambda\beta} - \partial_\beta\Gamma^\mu_{\lambda\alpha}, \quad (4.14)$$

$$A^\mu_{\lambda\alpha\beta} := \Gamma^\mu_{\rho\alpha}\Gamma^\rho_{\lambda\beta} - \Gamma^\mu_{\rho\beta}\Gamma^\rho_{\lambda\alpha}, \quad (4.15)$$

$$R^\mu_{\lambda\alpha\beta} := A^\mu_{\lambda\alpha\beta} + B^\mu_{\lambda\alpha\beta}, \quad (4.16)$$

$$C_{\mu\nu} := C^\lambda_{\mu\lambda\nu} \quad (C = A, B, R), \quad (4.17)$$

$$C := g^{\mu\nu}C_{\mu\nu} \quad (C = A, B, R) \quad (4.18)$$

と置く<sup>5)</sup> と、

$$\delta^{(\varepsilon)}R = \varepsilon^\mu\partial_\mu R \quad (4.19)$$

となる [1,2](以下で示す)。よって、

$$\begin{aligned} \sqrt{-g}R &\rightarrow \sqrt{-g}R + \partial_\mu(\varepsilon^\mu\sqrt{-g})R + \varepsilon^\mu\sqrt{-g}\partial_\mu R \\ &= \sqrt{-g}R + \partial_\mu(\varepsilon^\mu\sqrt{-g}R) \end{aligned} \quad (4.20)$$

となる。また、

$$\sqrt{-g}R \stackrel{\text{w}}{=} -\sqrt{-g}A \quad (4.21)$$

である ([7] など)。ここで、 $\stackrel{\text{w}}{=}$  は全微分項を無視する近似である。これより、

$$S_E := \int d^4x \mathcal{L}_E, \quad \mathcal{L}_E := -\frac{1}{2\kappa}\sqrt{-g}A \quad (4.22)$$

は作用の候補である。これをアインシュタイン作用と言ひ、 $\mathcal{L}_E$  をアインシュタインのラグランジアン密度と言ふ<sup>6)</sup>。

#### $\delta^{(\varepsilon)}R = \varepsilon^\mu\partial_\mu R$ の証明

さて、

$$\begin{aligned} \delta^{(\varepsilon)}\partial_\sigma g_{\mu\nu} &= \partial_\sigma g_{\mu\lambda}\partial_\nu\varepsilon^\lambda + \partial_\sigma g_{\lambda\nu}\partial_\mu\varepsilon^\lambda + g_{\mu\lambda}\partial_\sigma\partial_\nu\varepsilon^\lambda + g_{\lambda\nu}\partial_\sigma\partial_\mu\varepsilon^\lambda + \partial_\sigma\varepsilon^\lambda\partial_\lambda g_{\mu\nu} \\ &\quad + \varepsilon^\lambda\partial_\lambda\partial_\sigma g_{\mu\nu} \end{aligned} \quad (4.23)$$

より、

$$\delta^{(\varepsilon)}\Gamma_{\sigma\mu\nu} = \Gamma_{\sigma\mu\lambda}\partial_\nu\varepsilon^\lambda + \Gamma_{\sigma\lambda\nu}\partial_\mu\varepsilon^\lambda + \Gamma_{\lambda\mu\nu}\partial_\sigma\varepsilon^\lambda + \varepsilon^\lambda\partial_\lambda\Gamma_{\sigma\mu\nu} + g_{\sigma\lambda}\partial_\mu\partial_\nu\varepsilon^\lambda \quad (4.24)$$

<sup>5)</sup> $\Gamma_{\lambda\mu\nu} = \frac{1}{2}[-\partial_\lambda g_{\mu\nu} + \partial_\mu g_{\lambda\nu} + \partial_\nu g_{\lambda\mu}]$  であった。

<sup>6)</sup> $A$  は一般相対論では (一般座標変換に対して) スカラーではないが、特殊相対論 (平坦時空での重力理論) では (ローレンツ変換に対して) スカラーである。

である。また、

$$\delta^{(\varepsilon)} g^{\alpha\beta} = -\partial_\nu \varepsilon^\alpha g^{\nu\beta} - \partial_\nu \varepsilon^\beta g^{\alpha\nu} - \varepsilon^\lambda g^{\alpha\mu} g^{\beta\nu} \partial_\lambda g_{\mu\nu} \quad (4.25)$$

なので、

$$\delta^{(\varepsilon)} \Gamma^\tau_{\mu\nu} = \Gamma^\tau_{\mu\lambda} \partial_\nu \varepsilon^\lambda + \Gamma^\tau_{\lambda\nu} \partial_\mu \varepsilon^\lambda - \Gamma^\lambda_{\mu\nu} \partial_\lambda \varepsilon^\tau + \varepsilon^\lambda \partial_\lambda \Gamma^\tau_{\mu\nu} + \partial_\mu \partial_\nu \varepsilon^\tau \quad (4.26)$$

である。

よって、

$$\begin{aligned} -\delta^{(\varepsilon)} B^\tau_{\mu\nu\rho} &= \partial_\rho \Gamma^\tau_{\mu\lambda} \partial_\nu \varepsilon^\lambda + \partial_\rho \Gamma^\tau_{\lambda\nu} \partial_\mu \varepsilon^\lambda + \varepsilon^\lambda \partial_\rho \partial_\lambda \Gamma^\tau_{\mu\nu} + \partial_\lambda \Gamma^\tau_{\mu\nu} \partial_\rho \varepsilon^\lambda \\ &\quad - \partial_\rho \Gamma^\lambda_{\mu\nu} \partial_\lambda \varepsilon^\tau + \Gamma^\tau_{\lambda\nu} \partial_\rho \partial_\mu \varepsilon^\lambda - \Gamma^\lambda_{\mu\nu} \partial_\rho \partial_\lambda \varepsilon^\tau \\ &\quad - (\rho \longleftrightarrow \nu) \\ &= -B^\tau_{\mu\lambda\rho} \partial_\nu \varepsilon^\lambda - B^\tau_{\lambda\nu\rho} \partial_\mu \varepsilon^\lambda + B^\lambda_{\mu\nu\rho} \partial_\lambda \varepsilon^\tau - B^\tau_{\mu\nu\lambda} \partial_\rho \varepsilon^\lambda - \varepsilon^\lambda \partial_\lambda B^\tau_{\mu\nu\rho} \\ &\quad + [\Gamma^\tau_{\lambda\nu} \partial_\rho \partial_\mu \varepsilon^\lambda - \Gamma^\lambda_{\mu\nu} \partial_\rho \partial_\lambda \varepsilon^\tau - (\rho \longleftrightarrow \nu)] \end{aligned} \quad (4.27)$$

である。

また、

$$\begin{aligned} \delta^{(\varepsilon)} A^\tau_{\mu\nu\rho} &= \delta^{(\varepsilon)} \Gamma^\tau_{\alpha\nu} \cdot \Gamma^\alpha_{\mu\rho} + \Gamma^\tau_{\alpha\nu} \delta^{(\varepsilon)} \Gamma^\alpha_{\mu\rho} - (\rho \longleftrightarrow \nu) \\ &= [\Gamma^\tau_{\alpha\lambda} \partial_\nu \varepsilon^\lambda + \Gamma^\tau_{\lambda\nu} \partial_\alpha \varepsilon^\lambda - \Gamma^\lambda_{\alpha\nu} \partial_\lambda \varepsilon^\tau + \varepsilon^\lambda \partial_\lambda \Gamma^\tau_{\alpha\nu} + \partial_\alpha \partial_\nu \varepsilon^\tau] \Gamma^\alpha_{\mu\rho} \\ &\quad + \Gamma^\tau_{\alpha\nu} [\Gamma^\alpha_{\mu\lambda} \partial_\rho \varepsilon^\lambda + \Gamma^\alpha_{\lambda\rho} \partial_\mu \varepsilon^\lambda - \Gamma^\lambda_{\mu\rho} \partial_\lambda \varepsilon^\alpha + \varepsilon^\lambda \partial_\lambda \Gamma^\alpha_{\mu\rho} + \partial_\mu \partial_\rho \varepsilon^\alpha] \\ &\quad - (\rho \longleftrightarrow \nu) \\ &= A^\tau_{\mu\lambda\rho} \partial_\nu \varepsilon^\lambda + A^\tau_{\lambda\nu\rho} \partial_\mu \varepsilon^\lambda - A^\lambda_{\mu\nu\rho} \partial_\lambda \varepsilon^\tau + A^\tau_{\mu\nu\lambda} \partial_\rho \varepsilon^\lambda + \varepsilon^\lambda \partial_\lambda A^\tau_{\mu\nu\rho} \\ &\quad + [\Gamma^\tau_{\lambda\nu} \partial_\rho \partial_\mu \varepsilon^\lambda - \Gamma^\lambda_{\mu\nu} \partial_\rho \partial_\lambda \varepsilon^\tau - (\rho \longleftrightarrow \nu)] \end{aligned} \quad (4.28)$$

である。よって、

$$\delta^{(\varepsilon)} R^\tau_{\mu\nu\rho} = R^\tau_{\mu\lambda\rho} \partial_\nu \varepsilon^\lambda + R^\tau_{\lambda\nu\rho} \partial_\mu \varepsilon^\lambda - R^\lambda_{\mu\nu\rho} \partial_\lambda \varepsilon^\tau + R^\tau_{\mu\nu\lambda} \partial_\rho \varepsilon^\lambda + \varepsilon^\lambda \partial_\lambda R^\tau_{\mu\nu\rho} \quad (4.29)$$

を得る。

これより、

$$\delta^{(\varepsilon)} R_{\mu\rho} = \varepsilon^\lambda \partial_\lambda R_{\mu\rho} + \partial_\nu \varepsilon^\lambda R_{\mu\lambda} + \partial_\mu \varepsilon^\lambda R_{\nu\lambda} \quad (4.30)$$

となる。よって、

$$\delta^{(\varepsilon)} R = \varepsilon^\mu \partial_\mu R \quad (4.31)$$

を得る。

## 4.5 アインシュタイン方程式

作用

$$\begin{aligned} S_{\text{Gravity}} &= S_E + S_\Lambda \\ &= \int d^4x \frac{1}{\kappa} \sqrt{-g} \left( -\frac{1}{2} A - \Lambda \right) \end{aligned} \quad (4.32)$$

に対する  $\mathbf{G}^{\mu\nu}$  は、

$$\mathbf{G}^{\mu\nu} = \sqrt{-g} \left( R^{\mu\nu} - \frac{1}{2} g^{\mu\nu} R + \Lambda g^{\mu\nu} \right) \quad (4.33)$$

となる ([8] または §6.2)。よって、重力場の運動方程式 (4.2) は、

$$R^{\mu\nu} - \frac{1}{2} g^{\mu\nu} R + \Lambda g^{\mu\nu} = \kappa \frac{\mathbf{T}^{\mu\nu}}{\sqrt{-g}} \quad (4.34)$$

となる。これはアインシュタイン方程式である。

## 5 「物質場」の作用

重力場と結合していないスカラー場  $\phi$  の作用は、

$$S_{\text{Scalar,Free}} = \int d^4x \mathcal{L}_{\text{Scalar,Free}}, \quad (5.1)$$

$$\mathcal{L}_{\text{Scalar,Free}} = -\frac{1}{2} \left( \eta^{\mu\nu} \partial_\mu \phi \partial_\nu \phi + m^2 \phi^2 \right) \quad (5.2)$$

である。重力場としたスカラー場の作用は、

$$S_{\text{Scalar}} = \int d^4x \sqrt{-g} \mathcal{L}_{\text{Scalar}}, \quad (5.3)$$

$$\mathcal{L}_{\text{Scalar}} = -\frac{1}{2} \left( g^{\mu\nu} \partial_\mu \phi \partial_\nu \phi + m^2 \phi^2 \right) \quad (5.4)$$

である。

$|h_{\mu\nu}| \ll 1$  とし、 $h_{\mu\nu}$  の 1 次まで考えると、

$$\sqrt{-g} \approx 1 + \frac{1}{2} \eta^{\mu\nu} h_{\mu\nu}, \quad (5.5)$$

$$g^{\mu\nu} \approx \eta^{\mu\nu} - \eta^{\mu\alpha} \eta^{\nu\beta} h_{\alpha\beta} \quad (5.6)$$

なので、

$$\begin{aligned} \sqrt{-g} \mathcal{L}_{\text{Scalar}} &\approx \mathcal{L}_{\text{Scalar,Free}} + \frac{1}{2} \eta^{\mu\nu} h_{\mu\nu} \mathcal{L}_{\text{Scalar,Free}} + \frac{1}{2} \eta^{\mu\alpha} \eta^{\nu\beta} h_{\alpha\beta} \partial_\mu \phi \partial_\nu \phi \\ &= \mathcal{L}_{\text{Scalar,Free}} + \frac{1}{2} h_{\mu\nu} \mathbf{T}_{(S)}^{\mu\nu}, \end{aligned} \quad (5.7)$$

$$\mathbf{T}_{(S)}^{\mu\nu} = \eta^{\mu\nu} \mathcal{L}_{\text{Scalar,Free}} + \eta^{\mu\alpha} \eta^{\nu\beta} \partial_\alpha \phi \partial_\beta \phi \quad (5.8)$$

となる。 $T_{(S)}^{\mu\nu}$  は  $\mathcal{L}_{\text{Scalar,Free}}$  のエネルギー・運動量テンソルである。  
重力場と結合していない電磁場  $A_\mu$  の作用は、

$$S_{\text{EM,Free}} = \int d^4x \mathcal{L}_{\text{EM,Free}}, \quad (5.9)$$

$$\mathcal{L}_{\text{EM,Free}} = -\eta^{\mu\alpha}\eta^{\nu\beta} F_{\mu\nu} F_{\alpha\beta}, \quad (5.10)$$

$$F_{\mu\nu} := \partial_\mu A_\nu - \partial_\nu A_\mu \quad (5.11)$$

である。重力場としたスカラー場の作用は、

$$S_{\text{EM}} = \int d^4x \sqrt{-g} \mathcal{L}_{\text{EM}}, \quad (5.12)$$

$$\mathcal{L}_{\text{EM}} = -\frac{1}{4} g^{\mu\alpha} g^{\nu\beta} F_{\mu\nu} F_{\alpha\beta} \quad (5.13)$$

である。

## 6 コメント

### 6.1 光線の運動方程式

今はミンコフスキー時空を考えている。しかし、重力場がある場合は、光線はもはや直進しない。光線の運動方程式は、あるパラメーター  $\Lambda$  が存在し、

$$g_{\lambda\nu}(X) \frac{d^2 X^\nu}{d\Lambda^2} + \Gamma_{\lambda\mu\nu}(X) \frac{dX^\mu}{d\Lambda} \frac{dX^\nu}{d\Lambda} = 0, \quad (6.1)$$

$$g_{\mu\nu}(X) \frac{dX^\mu}{d\Lambda} \frac{dX^\nu}{d\Lambda} = 0 \quad (6.2)$$

となるべきである。

### 6.2 一般座標

一般座標では、 $\eta_{\mu\nu}$  はもはや定数ではない。ただし、

$$R^\alpha_{\beta\mu\nu}[\eta] = 0 \quad (6.3)$$

である。ここで、 $R^\alpha_{\beta\mu\nu}[q]$  は  $R^\alpha_{\beta\mu\nu}$  で  $g_{\mu\nu}$  を  $q_{\mu\nu}$  に置き換えたものである。領域  $\Omega$  で  $R^\alpha_{\beta\mu\nu}[q] = 0$  であることと、 $\Omega$  で  $q_{\mu\nu}$  が定数となる座標系が存在することは同値である。

一般座標では、アインシュタインのラグランジアン密度において、

$$\partial_\lambda g_{\mu\nu} \rightarrow \nabla_\lambda^{(0)} g_{\mu\nu} \quad (6.4)$$

の置き換えをすれば良い。ここで、 $\nabla_\lambda^{(0)}$  は共変微分で、その接続は  $\eta_{\mu\nu}$  に対するリーマン接続である。上の置き換えで、

$$\Gamma^\lambda_{\mu\nu} \rightarrow C^\lambda_{\mu\nu} := \Gamma^\lambda_{\mu\nu} - \gamma^\lambda_{\mu\nu} \quad (6.5)$$

となる。 $\gamma^\lambda_{\mu\nu}$  は  $\eta_{\mu\nu}$  に対するリーマン接続である。すなわち、 $\Gamma^\lambda_{\mu\nu}$  を  $\Gamma^\lambda_{\mu\nu}[g]$  と書くと、

$$\gamma^\lambda_{\mu\nu} = \Gamma^\lambda_{\mu\nu}[\eta] \quad (6.6)$$

である。

以下、

$$h := \sqrt{-g}, \quad (6.7)$$

$$\mathbf{D} := hg^{\mu\nu}C^\rho_{\gamma\nu}C^\gamma_{\mu\rho}, \quad (6.8)$$

$$\mathbf{E} := hg^{\mu\nu}C^\rho_{\gamma\rho}C^\gamma_{\mu\nu} \quad (6.9)$$

と置く。このとき、

$$\sqrt{-g}(-A) \rightarrow \mathbf{G} := \mathbf{D} - \mathbf{E} \quad (6.10)$$

である。

$\mathbf{G}$  の変分を取る。

まず、

$$\begin{aligned} \delta\mathbf{D} &= \delta(hg^{\mu\nu})C^\rho_{\gamma\nu}C^\gamma_{\mu\rho} + 2hg^{\mu\nu}\delta C^\rho_{\gamma\nu}C^\gamma_{\mu\rho} \\ &= -\delta(hg^{\mu\nu})C^\rho_{\gamma\nu}C^\gamma_{\mu\rho} + 2\delta(hg^{\mu\nu}C^\rho_{\gamma\nu})C^\gamma_{\mu\rho} \end{aligned} \quad (6.11)$$

である。ここで、

$$\partial_\lambda g^{\mu\nu} = -g^{\mu\alpha}\Gamma^\nu_{\alpha\lambda} - g^{\nu\alpha}\Gamma^\mu_{\alpha\lambda} \quad (6.12)$$

なので、

$$\delta\mathbf{D} = -\delta(hg^{\mu\nu})C^\rho_{\gamma\nu}C^\gamma_{\mu\rho} + [-\delta(\partial_\gamma g^{\mu\rho}h) - 2\delta(hg^{\mu\nu})\gamma^\rho_{\gamma\nu}]C^\gamma_{\mu\rho} \quad (6.13)$$

となる。

また、

$$\begin{aligned} \delta\mathbf{E} &= \delta(hg^{\mu\nu}C_\gamma)C^\gamma_{\mu\nu} + hg^{\mu\nu}C_\gamma\delta C^\gamma_{\mu\nu} \\ &= \delta(hg^{\mu\nu}C_\gamma)C^\gamma_{\mu\nu} + C_\gamma\delta(hg^{\mu\nu}C^\gamma_{\mu\nu}) - \delta(hg^{\mu\nu})C_\gamma C^\gamma_{\mu\nu} \\ &= \delta(g^{\mu\nu}\partial_\gamma h)C^\gamma_{\mu\nu} - \delta(hg^{\mu\nu})\gamma_\gamma C^\gamma_{\mu\nu} + C_\gamma\delta(hg^{\mu\nu}C^\gamma_{\mu\nu}) - \delta(hg^{\mu\nu})C_\gamma C^\gamma_{\mu\nu} \end{aligned} \quad (6.14)$$

である。ここで、 $\bullet_\gamma := \bullet^\rho_{\gamma\rho}$  ( $\bullet = C, \Gamma, \gamma$ ) である。ところで、(6.12) より、

$$\partial_\lambda(hg^{\mu\nu}) = h(-g^{\mu\alpha}\Gamma^\nu_{\alpha\lambda} - g^{\nu\alpha}\Gamma^\mu_{\alpha\lambda} + g^{\mu\nu}\Gamma_\lambda) \quad (6.15)$$

である。 $\lambda = \nu$  として、

$$\partial_\nu(hg^{\mu\nu}) = -hg^{\nu\alpha}\Gamma^\mu_{\alpha\nu} \quad (6.16)$$

なので、これを (6.14) の第 2 項に代入して、

$$\begin{aligned} \delta\mathbf{E} &= \delta(g^{\mu\nu}\partial_\gamma h)C^\gamma_{\mu\nu} - \delta(hg^{\mu\nu})\gamma_\gamma C^\gamma_{\mu\nu} - C_\gamma\delta[\partial_\beta(hg^{\gamma\beta})] \\ &\quad - C_\gamma\delta(hg^{\mu\nu})\gamma^\gamma_{\mu\nu} - \delta(hg^{\mu\nu})C_\gamma C^\gamma_{\mu\nu} \end{aligned} \quad (6.17)$$

を得る。よって、

$$\begin{aligned}\delta\mathbf{G} &= \delta(hg^{\mu\nu})C_\gamma C^\gamma_{\mu\nu} - \delta(hg^{\mu\nu})C^\rho_{\gamma\nu} C^\gamma_{\mu\rho} \\ &\quad - \delta[\partial_\gamma(g^{\mu\rho}h)]C^\gamma_{\mu\rho} + C_\gamma\delta[\partial_\beta(hg^{\gamma\beta})] \\ &\quad + \delta(hg^{\mu\nu})[\gamma_\gamma C^\gamma_{\mu\nu} + C_\gamma\gamma^\gamma_{\mu\nu} - 2\gamma^\rho_{\gamma\nu} C^\gamma_{\mu\rho}]\end{aligned}\quad (6.18)$$

である。第2行は、

$$\delta(g^{\mu\nu}h)[\partial_\gamma C^\gamma_{\mu\nu} - \partial_\nu C_\mu] + \partial_\rho \mathbf{F}^\rho \quad (6.19)$$

の形に書ける。よって、

$$\begin{aligned}\delta\mathbf{G} &= \delta(g^{\mu\nu}h)\left([\partial_\gamma C^\gamma_{\mu\nu} - \partial_\nu C_\mu + C_\gamma C^\gamma_{\mu\nu} - C^\rho_{\gamma\nu} C^\gamma_{\mu\rho}] + [\gamma_\gamma C^\gamma_{\mu\nu} + C_\gamma\gamma^\gamma_{\mu\nu} - 2\gamma^\rho_{\gamma\nu} C^\gamma_{\mu\rho}]\right) \\ &\quad + \partial_\rho \mathbf{F}^\rho \\ &= \delta(g^{\mu\nu}h)\left([\partial_\gamma C^\gamma_{\mu\nu} - \partial_\nu C_\mu + C_\gamma C^\gamma_{\mu\nu} - C^\rho_{\gamma\nu} C^\gamma_{\mu\rho}] \right. \\ &\quad \left. + [\gamma_\gamma C^\gamma_{\mu\nu} + C_\gamma\gamma^\gamma_{\mu\nu} - \gamma^\rho_{\gamma\nu} C^\gamma_{\mu\rho} - C^\rho_{\gamma\nu}\gamma^\gamma_{\mu\rho}]\right) + \partial_\rho \mathbf{F}^\rho \\ &\equiv \delta(g^{\mu\nu}h)\mathcal{R}_{\mu\nu} + \partial_\rho \mathbf{F}^\rho\end{aligned}\quad (6.20)$$

である。ここで、

$$\begin{aligned}\mathcal{R}_{\mu\nu} &= [\partial_\gamma C^\gamma_{\mu\nu} - \partial_\nu C_\mu + C_\gamma C^\gamma_{\mu\nu} - C^\rho_{\gamma\nu} C^\gamma_{\mu\rho}] \\ &\quad + [\gamma_\gamma C^\gamma_{\mu\nu} + C_\gamma\gamma^\gamma_{\mu\nu} - \gamma^\rho_{\gamma\nu} C^\gamma_{\mu\rho} - C^\rho_{\gamma\nu}\gamma^\gamma_{\mu\rho}] \\ &= \partial_\gamma \Gamma^\gamma_{\mu\nu} - \partial_\nu \Gamma_\mu + \Gamma_\gamma \Gamma^\gamma_{\mu\nu} - \Gamma^\rho_{\gamma\nu} \Gamma^\gamma_{\mu\rho} \\ &\quad - (\partial_\gamma \gamma^\gamma_{\mu\nu} - \partial_\nu \gamma_\mu + \gamma_\gamma \gamma^\gamma_{\mu\nu} - \gamma^\rho_{\gamma\nu} \gamma^\gamma_{\mu\rho})\end{aligned}\quad (6.21)$$

である。第1行目は  $g_{\mu\nu}$  に対するリッチテンソル  $R_{\mu\nu} \equiv R_{\mu\nu}[g]$  であり、第2行目は  $(-1)R_{\mu\nu}[\eta] = 0$  である。また、

$$\delta(g^{\mu\nu}h) = h\delta g^{\mu\nu} - \frac{1}{2}h g^{\mu\nu} g_{\alpha\beta} \delta g^{\alpha\beta} \quad (6.22)$$

なので、

$$\delta\mathbf{G} = \delta g^{\mu\nu} \cdot h\left(R_{\mu\nu} - \frac{1}{2}g_{\mu\nu}R\right) + \partial_\rho \mathbf{F}^\rho \quad (6.23)$$

となる。

### 6.3 疑問

ファインマンの重力理論はミンコフスキー時空上の理論であるが、重力場があると光線も曲がる。また、最終的にはラグランジアン密度にミンコフスキー計量は登場せず、 $g_{\mu\nu}$  のみが登場する。では、なぜミンコフスキー時空だと言えるのか？

また、最初に考えていた、 $\eta_{\mu\nu} = \text{diag}(-1, 1, 1, 1)$  となる座標系とは何か？

## 6.4 変換 (4.6) の意味

一般座標でも、(4.4), (4.5), (4.6) はそのまま成り立つ。(4.5), (4.6) は、

$$\delta^{(\varepsilon)} h_{\mu\nu} = \partial_\lambda g_{\mu\nu} \varepsilon^\lambda + g_{\lambda\mu} \partial_\nu \varepsilon^\lambda + g_{\lambda\nu} \partial_\mu \varepsilon^\lambda \equiv \delta^{(\varepsilon)} g_{\mu\nu}, \quad (6.24)$$

$$h_{\mu\nu} \rightarrow h_{\mu\nu} + \delta^{(\varepsilon)} h_{\mu\nu}, \quad (6.25)$$

$$\eta_{\mu\nu} \rightarrow \eta_{\mu\nu}, \quad (6.26)$$

$$g_{\mu\nu} \rightarrow g_{\mu\nu} + \delta^{(\varepsilon)} g_{\mu\nu} \quad (6.27)$$

である。この  $g_{\mu\nu}$  の変換の式は、

$$\delta^{(\varepsilon)} g_{\mu\nu} = \bar{\delta} g_{\mu\nu}(x) = g'_{\mu\nu}(x') \Big|_{x'=x} - g_{\mu\nu}(x), \quad (6.28)$$

$$g'_{\mu\nu}(x') = \frac{\partial x^\alpha}{\partial x'^\mu} \frac{\partial x^\beta}{\partial x'^\nu} g_{\alpha\beta}(x), \quad (6.29)$$

$$x'^\mu = x^\mu - \varepsilon^\mu \quad (6.30)$$

である。 $\bar{\delta} g_{\mu\nu}(x)$  はリ－微分である。

## 7 重力場の作用：低次からの構成。金星人の計算

### 7.1 一般論

重力場の作用を

$$S_{\text{Gravity}} = \sum_{n=2}^{\infty} S^{(n)}, \quad S^{(n)} = \int d^4x \mathcal{L}^{(n)} \quad (7.1)$$

と展開する。ここで、 $\mathcal{L}^{(n)}$  は  $h_{\mu\nu}$  の  $n$  次の項からなる。 $h_{\mu\nu}$  による変分を、

$$\delta S^{(n+1)} = -\frac{1}{2} \int d^4x \delta h_{\mu\nu} \chi_{(n)}^{\mu\nu} \quad (7.2)$$

と置く。ただし、

$$\partial_\nu \chi_{(1)}^{\mu\nu} = 0 \quad (7.3)$$

を要請する。運動方程式は、

$$\sum_{n=1}^{\infty} \chi_{(n)}^{\mu\nu} = T^{\mu\nu} \quad (7.4)$$

である。よって、

$$\partial_\nu \chi_{(1)}^{\mu\nu} = \partial_\nu (T^{\mu\nu} - \sum_{n=2}^{\infty} \chi_{(n)}^{\mu\nu}) = 0 \quad (7.5)$$

となる。(3.9) は、

$$g_{\lambda\mu} \partial_\nu T^{\mu\nu} = -\Gamma_{\lambda\mu\nu} T^{\mu\nu} \quad (7.6)$$

であった。よって、

$$g_{\lambda\mu} \partial_\nu T^{\mu\nu} = -\Gamma_{\lambda\mu\nu} \sum_{n=1}^{\infty} \chi_{(n)}^{\mu\nu} \quad (7.7)$$

である。これと (7.5) より、

$$\Gamma_{\lambda\mu\nu} \sum_{n=1}^{\infty} \chi_{(n)}^{\mu\nu} + (\eta_{\lambda\mu} + h_{\lambda\mu}) \sum_{n=2}^{\infty} \partial_\nu \chi_{(n)}^{\mu\nu} = 0 \quad (7.8)$$

を得る。よって、

$$\eta_{\lambda\mu} \partial_\nu \chi_{(2)}^{\mu\nu} = -\Gamma_{\lambda\mu\nu} \chi_{(1)}^{\mu\nu}, \quad (7.9)$$

$$\eta_{\lambda\mu} \partial_\nu \chi_{(n+1)}^{\mu\nu} = -\Gamma_{\lambda\mu\nu} \chi_{(n)}^{\mu\nu} - h_{\lambda\mu} \partial_\nu \chi_{(n)}^{\mu\nu} \quad (n = 2, 3, \dots) \quad (7.10)$$

を得る。

(7.3) と (7.4) とから  $\mathcal{L}^{(2)}$  が決まる。次に (7.9) から  $\mathcal{L}^{(3)}$  が決まる。そして、(7.10) から  $\mathcal{L}^{(4)}$ ,  $\mathcal{L}^{(5)}$ , ... が決まる。

$\mathcal{L}^{(2)}$  の候補は、

$$\mathcal{L}^{(2)} = \frac{1}{2} \left[ a_1 \eta^{\alpha\beta} \partial_\alpha h_{\mu\nu} \partial_\beta h^{\mu\nu} + a_2 \partial_\mu h^{\mu\nu} \partial_\sigma h^\sigma{}_\nu + a_3 \partial_\mu h^{\mu\nu} \partial_\nu h + a_4 \eta^{\mu\nu} \partial_\mu h \partial_\nu h \right] \quad (7.11)$$

である。ここで、

$$h := h^\mu{}_\mu \quad (7.12)$$

である。 $\mathcal{L}^{(3)}$  は §7.3 で考察し、§7.4 で決定する。 $\mathcal{L}^{(3)}$  には素朴には  $4! = 24$  項からなるが、8 組同じものがある。更に部分積分により、16 種類の項の間に 2 つの関係式が存在する。よって独立なのは 14 項である<sup>7)</sup>。明らかに  $\mathcal{L}^{(3)}$  ぐらいまでが限界で、 $\mathcal{L}^{(4)}$  より高次の項を求めるのは困難である。

なお、

$$\mathcal{L}^{(n)} \stackrel{w}{=} \mathcal{L}_E^{(n)} \quad (7.13)$$

となるはずである。ここで、 $\mathcal{L}_E^{(n)}$  はアインシュタインのラグランジアン密度のうち、 $h_{\mu\nu}$  について  $n$  次の部分である。

## 7.2 最低次のラグランジアン密度

(7.11) の  $a_i$  ( $i = 1, 2, 3, 4$ ) を決定する。

まず、

$$\begin{aligned} \chi_{(1)}^{\mu\nu} &= 2a_1 \square h^{\mu\nu} + a_2 (\partial^\mu \partial_\sigma h^{\sigma\nu} + \partial^\nu \partial_\sigma h^{\sigma\mu}) \\ &\quad + a_3 (\partial^\mu \partial^\nu h + \eta^{\mu\nu} \partial_\alpha \partial_\beta h^{\alpha\beta}) + 2a_4 \eta^{\mu\nu} \square h \end{aligned} \quad (7.14)$$

である。よって、

$$\begin{aligned} \partial_\nu \chi_{(1)}^{\mu\nu} &= 2a_1 \square (\partial h)^\mu + a_2 (\partial^\mu (\partial \partial h) + \square (\partial h)^\mu) \\ &\quad + a_3 (\partial^\mu \square h + \partial^\mu (\partial \partial h)) + 2a_4 \partial^\mu \square h, \end{aligned} \quad (7.15)$$

$$(\partial h)^\mu := \partial_\nu h^{\mu\nu}, \quad (\partial \partial h) := \partial_\alpha \partial_\beta h^{\alpha\beta} \quad (7.16)$$

となる。これより、

$$2a_1 + a_2 = 0, \quad (7.17)$$

$$a_2 + a_3 = 0, \quad (7.18)$$

$$a_1 + a_4 = 0 \quad (7.19)$$

を得る。これより、

$$a_2 = -2a_1, \quad a_3 = 2a_1, \quad a_4 = -a_1 \quad (7.20)$$

<sup>7)</sup> ファインマン [1] によると 18 項らしい。なぜ?

と分かる：

$$\begin{aligned} \mathcal{X}_{(1)}^{\mu\nu} = & 2a_1 \left[ \square h^{\mu\nu} - (\partial^\mu \partial_\sigma h^{\sigma\nu} + \partial^\nu \partial_\sigma h^{\sigma\mu}) \right. \\ & \left. + (\partial^\mu \partial^\nu h + \eta^{\mu\nu} \partial_\alpha \partial_\beta h^{\alpha\beta}) - \eta^{\mu\nu} \square h \right], \end{aligned} \quad (7.21)$$

$$\mathcal{L}^{(2)} = a_1 \left[ \frac{1}{2} \eta^{\alpha\beta} \partial_\alpha h_{\mu\nu} \partial_\beta h^{\mu\nu} - \partial_\mu h^{\mu\nu} \partial_\sigma h^\sigma{}_\nu + \partial_\mu h^{\mu\nu} \partial_\nu h - \frac{1}{2} \eta^{\mu\nu} \partial_\mu h \partial_\nu h \right]. \quad (7.22)$$

なお、

$$a_1 = -\frac{1}{4\kappa} \quad (7.23)$$

である。

### 7.3 $h_{\mu\nu}$ の3次のラグランジアン密度

$\mathcal{L}^{(3)}$  を考える。今、

$$(i_1 i_2 i_3 i_4) := h^{\mu_{i_1}}{}_{\mu_1} \partial_{\mu_2} h^{\mu_{i_2}}{}_{\mu_3} \partial^{\mu_{i_3}} h^{\mu_{i_4}}{}_{\mu_4} \quad (7.24)$$

とする。ここで、 $i_k = 1, 2, 3, 4$  であり、 $i_k \neq i_l (k \neq l)$  である。 $\mathcal{L}^{(3)}$  は、

$$\mathcal{L}^{(3)} = \sum_{(i_1, i_2, i_3, i_4) \in S_4} g_{(i_1 i_2 i_3 i_4)} (i_1 i_2 i_3 i_4) \quad (7.25)$$

と24項で書ける。 $S_4$  は4次の置換群である。ただし、

$$(1342) = (1234), \quad (3214) = (2341), \quad (3412) = (2431), \quad (4213) = (2143), \quad (7.26)$$

$$(4123) = (3421), \quad (4231) = (3142), \quad (4312) = (2134), \quad (4321) = (3124) \quad (7.27)$$

の関係があるので、16項に減らせる。よって、一般の形は、

$$\begin{aligned} \mathcal{L}^{(3)} = & g_1 h \partial_\alpha h \partial^\alpha h + g_2 h \partial_\gamma h^{\alpha\beta} \partial^\gamma h_{\alpha\beta} + g_3 h \partial_\gamma h^{\alpha\beta} \partial_\beta h^\gamma{}_\alpha + g_4 h_{\alpha\beta} \partial^\alpha h \partial^\beta h \\ & + g_5 h_{\alpha\beta} \partial^\alpha h^\delta{}_\gamma \partial^\beta h^\gamma{}_\delta + g_6 h_{\alpha\beta} \partial^\alpha h^{\gamma\delta} \partial_\gamma h^\beta{}_\delta + g_7 h_{\alpha\beta} \partial_\gamma h^{\alpha\delta} \partial^\gamma h^\beta{}_\delta + g_8 h_{\alpha\beta} \partial_\gamma h^{\alpha\delta} \partial_\delta h^{\beta\gamma} \\ & + g_9 h_{\alpha\beta} \partial_\gamma h \partial^\alpha h^{\beta\gamma} + g_{10} h_{\alpha\beta} \partial_\gamma h \partial^\gamma h^{\alpha\beta} + g_{11} h (\partial h)^\alpha \partial_\alpha h + g_{12} h_{\alpha\beta} \partial^\beta h^{\alpha\gamma} (\partial h)_\gamma \\ & + g_{13} h_{\alpha\beta} \partial^\alpha h (\partial h)^\beta + g_{14} h_{\alpha\beta} \partial_\gamma h^{\alpha\beta} (\partial h)^\gamma + g_{15} h (\partial h)_\alpha (\partial h)^\alpha + g_{16} h_{\alpha\beta} (\partial h)^\alpha (\partial h)^\beta \\ \equiv & \sum_{i=1}^{16} g_i [i] \end{aligned} \quad (7.28)$$

である。ここで、

$$(\partial h)^\alpha := \partial_\beta h^{\beta\alpha} \quad (7.29)$$

である。また、

$$(\partial \partial h) := \partial_\alpha \partial_\beta h^{\alpha\beta} \quad (7.30)$$

とする。以下、

$$\begin{aligned}\chi_{(2)}^{\mu\nu} &:= -2\left(\frac{\partial\mathcal{L}^{(3)}}{\partial h_{\mu\nu}} - \partial_\lambda\frac{\partial\mathcal{L}^{(3)}}{\partial(\partial_\lambda h_{\mu\nu})}\right) \\ &\equiv \sum_{i=1}^{16} g_i \chi_{[i]}^{\mu\nu}\end{aligned}\quad (7.31)$$

を求め、次に

$$(\partial\chi_{[i]})_\mu := \eta_{\lambda\mu}\partial_\nu\chi_{[i]}^{\lambda\nu}\quad (7.32)$$

を求める。(7.9) は、

$$\sum_{i=1}^{16} g_i (\partial\chi_{[i]})_\mu = -\Gamma_{\mu\alpha\beta}\chi_{(1)}^{\alpha\beta} \equiv V_\mu\quad (7.33)$$

であり、

$$\chi_{(1)}^{\alpha\beta} = 4g[-\square h^{\alpha\beta} + \partial^\alpha(\partial h)^\beta + \partial^\beta(\partial h)^\alpha - \partial^\beta\partial^\alpha h + \eta^{\alpha\beta}\square h - \eta^{\alpha\beta}(\partial\partial h)],\quad (7.34)$$

$$g := \frac{1}{8\kappa}\quad (7.35)$$

である。よって、

$$\begin{aligned}V_\mu/g &= -2\partial_\mu h_{\alpha\beta}\square h^{\alpha\beta} + 4\partial_\mu h_{\alpha\beta}\partial^\alpha(\partial h)^\beta - 2\partial_\mu h_{\alpha\beta}\partial^\beta\partial^\alpha h \\ &\quad + 2\partial_\mu h\square h - 2\partial_\mu h(\partial\partial h) \\ &\quad + 4\partial_\alpha h_{\mu\beta}\square h^{\alpha\beta} - 4\partial_\alpha h_{\mu\beta}\partial^\alpha(\partial h)^\beta - 4\partial_\alpha h_{\mu\beta}\partial^\beta(\partial h)^\alpha + 4\partial_\alpha h_{\mu\beta}\partial^\beta\partial^\alpha h \\ &\quad - 4(\partial h)_\mu\square h + 4(\partial h)_\mu(\partial\partial h)\end{aligned}\quad (7.36)$$

となる。この式から  $\{g_i\}_{i=1}^{16}$  が決まる。

$\{[i]\}_{i=1}^{16}$  は独立ではない。今、 $a\partial_\mu b\partial_\nu c$  という量を考える。 $a, b, c$  のうちに上付き添え字  $\mu, \nu$  も含まれ、 $a\partial_\mu b\partial_\nu c$  はスカラーとする。このとき、

$$\begin{aligned}a\partial_\mu b\partial_\nu c &\stackrel{\text{w}}{=} -\partial_\nu(a\partial_\mu b)c \\ &= -\partial_\nu a\partial_\mu b c - a\partial_\nu\partial_\mu b c \\ &\stackrel{\text{w}}{=} -\partial_\nu a\partial_\mu b c + \partial_\mu(ac)\partial_\nu b \\ &= -c\partial_\nu a\partial_\mu b + c\partial_\mu a\partial_\nu b + a\partial_\mu c\partial_\nu b\end{aligned}\quad (7.37)$$

より、 $\{[i]\}_{i=1}^{16}$  の間に関係が付く。ただし、 $a^{\mu\nu}$  が対称テンソルの時、

$$\begin{aligned}a^{\mu\nu}\partial_\mu b\partial_\nu c &\stackrel{\text{w}}{=} -c\partial_\nu a^{\mu\nu}\partial_\mu b + c\partial_\mu a^{\mu\nu}\partial_\nu b + a^{\mu\nu}\partial_\mu c\partial_\nu b \\ &= a^{\mu\nu}\partial_\nu c\partial_\mu b\end{aligned}\quad (7.38)$$

なので、 $a\partial_\mu b\partial^\mu c$  や  $h^{\mu\nu}\partial_\mu b\partial_\nu c$  のタイプの項は考えなくてよい。まず、

$$\begin{aligned}[3] &= h\partial_\gamma h^{\alpha\beta}\partial_\beta h^\gamma_\alpha \\ &\stackrel{\text{w}}{=} -h^\gamma_\alpha\partial_\beta h\partial_\gamma h^{\alpha\beta} + h^\gamma_\alpha\partial_\gamma h\partial_\beta h^{\alpha\beta} + h\partial_\beta h^{\alpha\beta}\partial_\gamma h^\gamma_\alpha \\ &= -[9] + [13] + [15]\end{aligned}\quad (7.39)$$

である。また、

$$\begin{aligned}
[6] &= h_{\alpha\beta} \partial^\alpha h^{\gamma\delta} \partial_\gamma h^\beta_\delta \\
&\stackrel{\text{w}}{=} -h^\beta_\delta \partial^\alpha h^{\gamma\delta} \partial_\gamma h_{\alpha\beta} + h^\beta_\delta \partial_\gamma h^{\gamma\delta} \partial^\alpha h_{\alpha\beta} + h_{\alpha\beta} \partial_\gamma h^{\gamma\delta} \partial^\alpha h^\beta_\delta \\
&= -[8] + [16] + [12]
\end{aligned} \tag{7.40}$$

である。なお、

$$\begin{aligned}
[11] &= h \partial_\beta h^{\beta\alpha} \partial_\alpha h \\
&\stackrel{\text{w}}{=} -h \partial_\beta h^{\beta\alpha} \partial_\alpha h + h \partial_\alpha h^{\beta\alpha} \partial_\beta h + h \partial_\alpha h^{\beta\alpha} \partial_\beta h = [11]
\end{aligned} \tag{7.41}$$

および、

$$\begin{aligned}
[14] &= h_{\alpha\beta} \partial_\gamma h^{\alpha\beta} \partial_\delta h^{\delta\gamma} \\
&\stackrel{\text{w}}{=} -h^{\delta\gamma} \partial_\gamma h^{\alpha\beta} \partial_\delta h_{\alpha\beta} + h^{\delta\gamma} \partial_\delta h^{\alpha\beta} \partial_\gamma h_{\alpha\beta} + h_{\alpha\beta} \partial_\delta h^{\alpha\beta} \partial_\gamma h^{\delta\gamma} = [14]
\end{aligned} \tag{7.42}$$

である。よって、

$$[3] + [9] - [13] - [15] \stackrel{\text{w}}{=} 0, \quad [6] + [8] - [12] - [16] \stackrel{\text{w}}{=} 0 \tag{7.43}$$

である。これより、[15], [16] を消すこともできる。

§7.4 で  $\{(\partial\chi_{[i]})_\mu\}_{i=1}^{16}$  を計算し、 $\{g_i\}$  に課される条件式たちを求める。その結果、

$$\begin{aligned}
\mathcal{L}^{(3)}/g &\stackrel{\text{w}}{=} \frac{1}{2}[1] - \frac{1}{2}[2] + [3] - [4] + [5] - 4[6] + 2[7] - 2[8] + 2[9] - 2[10] \\
&\quad - [11] + 2[13] + 2[14]
\end{aligned} \tag{7.44}$$

を得る (文献 [4-6])。

## 7.4 $h_{\mu\nu}$ の3次のラグランジアン密度：具体的な計算

$h_{\mu\nu}$  の3次のラグランジアン密度を決定する。

本節の参考文献は [6] である。本節には、まだミスが残っている可能性がある。

以下では、

$$\begin{aligned}\chi_{[i]}^{\mu\nu} &= A^{\mu\nu} \\ &= \frac{1}{2}(A^{\mu\nu} + A^{\nu\mu})\end{aligned}\quad (7.45)$$

のような書き方をする。つまり、1つ目の等号では  $\mu, \nu$  が対称化されているとは限らないが、2つ目の等号では必ず対称化されている。また、 $(\partial\partial h) = \partial_\alpha\partial_\beta h^{\alpha\beta}$  とする。さて、

$$\begin{aligned}\chi_{[1]}^{\mu\nu} &= \eta^{\mu\nu}[-2\partial_\alpha h\partial^\alpha h + 4\partial_\alpha(h\partial^\alpha h)] \\ &= \eta^{\mu\nu}[2\partial_\alpha h\partial^\alpha h + 4h\Box h],\end{aligned}\quad (7.46)$$

$$\begin{aligned}\chi_{[2]}^{\mu\nu} &= -2\eta^{\mu\nu}\partial_\gamma h^{\alpha\beta}\partial^\gamma h_{\alpha\beta} + 4\partial_\gamma(h\partial^\gamma h^{\mu\nu}) \\ &= -2\eta^{\mu\nu}\partial_\gamma h^{\alpha\beta}\partial^\gamma h_{\alpha\beta} + 4\partial_\gamma h\partial^\gamma h^{\mu\nu} + 4h\Box h^{\mu\nu},\end{aligned}\quad (7.47)$$

$$\begin{aligned}\chi_{[3]}^{\mu\nu} &= -2\eta^{\mu\nu}\partial_\gamma h^{\alpha\beta}\partial_\beta h^\gamma_\alpha + 2\partial_\gamma(h\partial^\nu h^{\gamma\mu}) + 2\partial_\beta(h\partial^\mu h^{\nu\beta}) \\ &= -2\eta^{\mu\nu}\partial_\gamma h^{\alpha\beta}\partial_\beta h^\gamma_\alpha + 2\partial_\gamma h\partial^\nu h^{\gamma\mu} + 2\partial_\gamma h\partial^\mu h^{\gamma\nu} + 2h\partial^\mu(\partial h)^\nu + 2h\partial^\nu(\partial h)^\mu,\end{aligned}\quad (7.48)$$

$$\begin{aligned}\chi_{[4]}^{\mu\nu} &= -2\partial^\mu h\partial^\nu h + 4\eta^{\mu\nu}\partial_\alpha(h^{\alpha\beta}\partial_\beta h) \\ &= -2\partial^\mu h\partial^\nu h + 4\eta^{\mu\nu}[(\partial h)^\alpha\partial_\alpha h + h^{\alpha\beta}\partial_\alpha\partial_\beta h],\end{aligned}\quad (7.49)$$

$$\begin{aligned}\chi_{[5]}^{\mu\nu} &= -2\partial^\mu h^{\alpha\beta}\partial^\nu h_{\alpha\beta} + 4\partial_\alpha(h^{\alpha\beta}\partial_\beta h^{\mu\nu}) \\ &= -2\partial^\mu h^{\alpha\beta}\partial^\nu h_{\alpha\beta} + 4(\partial h)^\alpha\partial_\alpha h^{\mu\nu} + 4h^{\alpha\beta}\partial_\alpha\partial_\beta h^{\mu\nu},\end{aligned}\quad (7.50)$$

$$\begin{aligned}\chi_{[6]}^{\mu\nu} &= -\partial^\mu h^{\gamma\delta}\partial_\gamma h^\nu_\delta - \partial^\nu h^{\gamma\delta}\partial_\gamma h^\mu_\delta + 2\partial_\alpha(h^{\alpha\beta}\partial^\mu h^\nu_\beta) + 2\partial_\gamma(h^{\mu\alpha}\partial_\alpha h^{\gamma\nu}) \\ &= -\partial^\mu h^{\gamma\delta}\partial_\gamma h^\nu_\delta - \partial^\nu h^{\gamma\delta}\partial_\gamma h^\mu_\delta + (\partial h)^\alpha\partial^\mu h^\nu_\alpha + (\partial h)^\alpha\partial^\nu h^\mu_\alpha + h^{\alpha\beta}\partial_\alpha\partial^\mu h^\nu_\beta + h^{\alpha\beta}\partial_\alpha\partial^\nu h^\mu_\beta \\ &\quad + 2\partial_\gamma h^{\mu\alpha}\partial_\alpha h^{\gamma\nu} + h^{\mu\alpha}\partial_\alpha(\partial h)^\nu + h^{\nu\alpha}\partial_\alpha(\partial h)^\mu,\end{aligned}\quad (7.51)$$

$$\begin{aligned}\chi_{[7]}^{\mu\nu} &= -2\partial_\gamma h^{\mu\delta}\partial^\gamma h^\nu_\delta + 4\partial_\gamma(h^\mu_\beta\partial^\gamma h^{\beta\nu}) \\ &= -2\partial_\gamma h^{\mu\delta}\partial^\gamma h^\nu_\delta + 4\partial_\gamma h^\mu_\beta\partial^\gamma h^{\beta\nu} + 2h^\mu_\beta\Box h^{\beta\nu} + 2h^\nu_\beta\Box h^{\beta\mu},\end{aligned}\quad (7.52)$$

$$\begin{aligned}\chi_{[8]}^{\mu\nu} &= -2\partial_\gamma h^{\mu\delta}\partial_\delta h^{\nu\gamma} + 4\partial_\gamma(h^\mu_\beta\partial^\nu h^{\beta\gamma}) \\ &= -2\partial_\gamma h^{\mu\delta}\partial_\delta h^{\nu\gamma} + 2\partial_\gamma h^\mu_\beta\partial^\nu h^{\beta\gamma} + 2\partial_\gamma h^\nu_\beta\partial^\mu h^{\beta\gamma} + 2h^\mu_\beta\partial^\nu(\partial h)^\beta + 2h^\nu_\beta\partial^\mu(\partial h)^\beta,\end{aligned}\quad (7.53)$$

$$\begin{aligned}\chi_{[9]}^{\mu\nu} &= -2(\partial_\gamma h\partial^\mu h^{\nu\gamma}) + 2\eta^{\mu\nu}\partial_\gamma(h_{\alpha\beta}\partial^\alpha h^{\beta\gamma}) + 2\partial_\alpha(h^{\alpha\mu}\partial^\nu h) \\ &= -\partial_\gamma h\partial^\mu h^{\nu\gamma} - \partial_\gamma h\partial^\nu h^{\mu\gamma} + 2\eta^{\mu\nu}[\partial_\gamma h_{\alpha\beta}\partial^\alpha h^{\beta\gamma} + h^{\alpha\beta}\partial_\alpha(\partial h)_\beta] \\ &\quad + (\partial h)^\mu\partial^\nu h + (\partial h)^\nu\partial^\mu h + h^{\alpha\mu}\partial_\alpha\partial^\nu h + h^{\alpha\nu}\partial_\alpha\partial^\mu h,\end{aligned}\quad (7.54)$$

$$\begin{aligned}\chi_{[10]}^{\mu\nu} &= -2\partial_\gamma h\partial^\gamma h^{\mu\nu} + 2\eta^{\mu\nu}\partial_\gamma(h_{\alpha\beta}\partial^\gamma h^{\alpha\beta}) + 2\partial_\gamma(h^{\mu\nu}\partial^\gamma h) \\ &= 2\eta^{\mu\nu}[\partial_\gamma h_{\alpha\beta}\partial^\gamma h^{\alpha\beta} + h_{\alpha\beta}\Box h^{\alpha\beta}] + 2h^{\mu\nu}\Box h,\end{aligned}\quad (7.55)$$

$$\begin{aligned}
\chi_{[11]}^{\mu\nu} &= -2\eta^{\mu\nu}(\partial h)^\alpha \partial_\alpha h + 2\partial^\mu(h\partial^\nu h) + 2\eta^{\mu\nu} \partial_\alpha[h(\partial h)^\alpha] \\
&= 2\partial^\mu h \partial^\nu h + 2h\partial^\mu \partial^\nu h + 2\eta^{\mu\nu} h(\partial\partial h),
\end{aligned} \tag{7.56}$$

$$\begin{aligned}
\chi_{[12]}^{\mu\nu} &= -2\partial^\mu h^{\nu\gamma}(\partial h)_\gamma + 2\partial_\beta[h^{\mu\beta}(\partial h)^\nu] + 2\partial^\mu(h^{\alpha\beta}\partial_\beta h^\nu_\alpha) \\
&= -\partial^\mu h^{\nu\gamma}(\partial h)_\gamma - \partial^\nu h^{\mu\gamma}(\partial h)_\gamma + 2(\partial h)^\mu(\partial h)^\nu + h^{\mu\beta}\partial_\beta(\partial h)^\nu + h^{\nu\beta}\partial_\beta(\partial h)^\mu \\
&\quad + \partial^\mu h^{\alpha\beta}\partial_\beta h^\nu_\alpha + \partial^\nu h^{\alpha\beta}\partial_\beta h^\mu_\alpha + h^{\alpha\beta}\partial_\beta\partial^\mu h^\nu_\alpha + h^{\alpha\beta}\partial_\beta\partial^\nu h^\mu_\alpha,
\end{aligned} \tag{7.57}$$

$$\begin{aligned}
\chi_{[13]}^{\mu\nu} &= -2\partial^\mu h(\partial h)^\nu + 2\eta^{\mu\nu}\partial_\alpha[h^{\alpha\beta}(\partial h)_\beta] + 2\partial^\mu(h^{\alpha\nu}\partial_\alpha h) \\
&= -\partial^\mu h(\partial h)^\nu - \partial^\nu h(\partial h)^\mu + 2\eta^{\mu\nu}[(\partial h)^\alpha(\partial h)_\alpha + h^{\alpha\beta}\partial_\alpha(\partial h)_\beta] \\
&\quad + \partial^\mu h^{\alpha\nu}\partial_\alpha h + \partial^\nu h^{\alpha\mu}\partial_\alpha h + h^{\alpha\nu}\partial^\mu\partial_\alpha h + h^{\alpha\mu}\partial^\nu\partial_\alpha h,
\end{aligned} \tag{7.58}$$

$$\begin{aligned}
\chi_{[14]}^{\mu\nu} &= -2\partial_\gamma h^{\mu\nu}(\partial h)^\gamma + 2\partial_\gamma[h^{\mu\nu}(\partial h)^\gamma] + 2\partial^\mu(h_{\alpha\beta}\partial^\nu h^{\alpha\beta}) \\
&= 2h^{\mu\nu}(\partial\partial h) + 2\partial^\mu h_{\alpha\beta}\partial^\nu h^{\alpha\beta} + 2h_{\alpha\beta}\partial^\mu\partial^\nu h^{\alpha\beta},
\end{aligned} \tag{7.59}$$

$$\begin{aligned}
\chi_{[15]}^{\mu\nu} &= -2\eta^{\mu\nu}(\partial h)_\alpha(\partial h)^\alpha + 4\partial^\mu[h(\partial h)^\nu] \\
&= -2\eta^{\mu\nu}(\partial h)_\alpha(\partial h)^\alpha + 2\partial^\mu h(\partial h)^\nu + 2\partial^\nu h(\partial h)^\mu + 2h\partial^\mu(\partial h)^\nu + 2h\partial^\nu(\partial h)^\mu,
\end{aligned} \tag{7.60}$$

$$\begin{aligned}
\chi_{[16]}^{\mu\nu} &= -2(\partial h)^\mu(\partial h)^\nu + 4\partial^\mu[h^{\nu\alpha}(\partial h)_\alpha] \\
&= -2(\partial h)^\mu(\partial h)^\nu + 2\partial^\mu h^{\nu\alpha}(\partial h)_\alpha + 2\partial^\nu h^{\mu\alpha}(\partial h)_\alpha \\
&\quad + 2h^{\nu\alpha}\partial^\mu(\partial h)_\alpha + 2h^{\mu\alpha}\partial^\nu(\partial h)_\alpha
\end{aligned} \tag{7.61}$$

である。また、

$$\begin{aligned}
(\partial\chi_{[1]})_\mu &= \partial_\mu[2\partial_\alpha h\partial^\alpha h + 4h\Box h] \\
&= 4\partial_\alpha h\partial_\mu\partial^\alpha h + 4\partial_\mu h\Box h + 4h\partial_\mu\Box h,
\end{aligned} \tag{7.62}$$

$$\begin{aligned}
(\partial\chi_{[2]})_\mu &= -2\partial_\mu[\partial_\gamma h_{\alpha\beta}\partial^\gamma h^{\alpha\beta}] + 4\partial_\nu(\partial_\gamma h\partial^\gamma h^\nu_\mu) + 4\partial_\nu(h\Box h^\nu_\mu) \\
&= -4\partial_\gamma h_{\alpha\beta}\partial_\mu\partial^\gamma h^{\alpha\beta} + 4\partial_\nu\partial_\gamma h\partial^\gamma h^\nu_\mu + 4\partial_\gamma h\partial^\gamma(\partial h)_\mu \\
&\quad + 4\partial_\nu h\Box h^\nu_\mu + 4h\Box(\partial h)_\mu,
\end{aligned} \tag{7.63}$$

$$\begin{aligned}
(\partial\chi_{[3]})_\mu &= -2\partial_\mu\partial_\gamma h^{\alpha\beta}\partial_\beta h^\gamma_\alpha - 2\partial_\gamma h^{\alpha\beta}\partial_\mu\partial_\beta h^\gamma_\alpha + 2\partial_\nu\partial_\gamma h\partial^\nu h^\gamma_\mu + 2\partial_\gamma h\Box h^\gamma_\mu \\
&\quad + 2\partial_\nu\partial_\gamma h\partial_\mu h^{\gamma\nu} + 2\partial_\gamma h\partial_\mu(\partial h)^\gamma + 2\partial_\nu h\partial_\mu(\partial h)^\nu + 2h\partial_\mu(\partial\partial h) \\
&\quad + 2\partial_\nu h\partial^\nu(\partial h)_\mu + 2h\Box(\partial h)_\mu \\
&= -2\partial_\mu\partial_\gamma h^{\alpha\beta}\partial_\beta h^\gamma_\alpha - 2\partial_\gamma h^{\alpha\beta}\partial_\mu\partial_\beta h^\gamma_\alpha + 2\partial_\nu\partial_\gamma h\partial^\nu h^\gamma_\mu + 2\partial_\gamma h\Box h^\gamma_\mu \\
&\quad + 2\partial_\nu\partial_\gamma h\partial_\mu h^{\gamma\nu} + 4\partial_\gamma h\partial_\mu(\partial h)^\gamma + 2h\partial_\mu(\partial\partial h) \\
&\quad + 2\partial_\nu h\partial^\nu(\partial h)_\mu + 2h\Box(\partial h)_\mu,
\end{aligned} \tag{7.64}$$

$$\begin{aligned}
(\partial\chi_{[4]})_\mu &= -2\partial_\nu(\partial_\mu h\partial^\nu h) + 4\partial_\mu[(\partial h)^\alpha\partial_\alpha h + h^{\alpha\beta}\partial_\alpha\partial_\beta h] \\
&= -2\partial_\nu\partial_\mu h\partial^\nu h - 2\partial_\mu h\Box h + 4\partial_\mu(\partial h)^\alpha\partial_\alpha h + 4(\partial h)^\alpha\partial_\mu\partial_\alpha h \\
&\quad + 4\partial_\mu h^{\alpha\beta}\partial_\alpha\partial_\beta h + 4h^{\alpha\beta}\partial_\mu\partial_\alpha\partial_\beta h,
\end{aligned} \tag{7.65}$$

$$\begin{aligned}
(\partial\chi_{[5]})_\mu &= \partial_\nu[-2\partial_\mu h^{\alpha\beta}\partial^\nu h_{\alpha\beta} + 4(\partial h)^\alpha\partial_\alpha h^\nu_\mu + 4h^{\alpha\beta}\partial_\alpha\partial_\beta h^\nu_\mu] \\
&= -2\partial_\nu\partial_\mu h^{\alpha\beta}\partial^\nu h_{\alpha\beta} - 2\partial_\mu h^{\alpha\beta}\Box h_{\alpha\beta} + 4\partial_\nu(\partial h)^\alpha\partial_\alpha h^\nu_\mu + 4(\partial h)^\alpha\partial_\alpha(\partial h)_\mu \\
&\quad + 4\partial_\nu h^{\alpha\beta}\partial_\alpha\partial_\beta h^\nu_\mu + 4h^{\alpha\beta}\partial_\alpha\partial_\beta(\partial h)_\mu,
\end{aligned} \tag{7.66}$$

$$\begin{aligned}
(\partial\mathcal{X}_{[6]})_\mu &= -\partial_\nu\partial_\mu h^{\gamma\delta}\partial_\gamma h^\nu_\delta - \partial_\mu h^{\gamma\delta}\partial_\gamma(\partial h)_\delta - \square h^{\gamma\delta}\partial_\gamma h_{\mu\delta} - \partial^\nu h^{\gamma\delta}\partial_\nu\partial_\gamma h_{\mu\delta} \\
&\quad + \partial_\nu(\partial h)^\alpha\partial_\mu h_\alpha^\nu + (\partial h)^\alpha\partial_\mu(\partial h)_\alpha + \partial_\nu(\partial h)^\alpha\partial^\nu h_{\alpha\mu} + (\partial h)^\alpha\square h_{\alpha\mu} \\
&\quad + \partial_\nu h^{\alpha\beta}\partial_\alpha\partial_\mu h_\beta^\nu + h^{\alpha\beta}\partial_\alpha\partial_\mu(\partial h)_\beta + \partial_\nu h^{\alpha\beta}\partial_\alpha\partial^\nu h_{\beta\mu} + h^{\alpha\beta}\partial_\alpha\square h_{\beta\mu} \\
&\quad + 2\partial_\nu\partial_\gamma h_\mu^\alpha\partial_\alpha h^{\gamma\nu} + 2\partial_\gamma h_\mu^\alpha\partial_\alpha(\partial h)^\gamma + \partial_\nu h_\mu^\alpha\partial_\alpha(\partial h)^\nu + h_\mu^\alpha\partial_\alpha(\partial\partial h) \\
&\quad + (\partial h)^\alpha\partial_\alpha(\partial h)_\mu + h^{\nu\alpha}\partial_\nu\partial_\alpha(\partial h)_\mu \\
&= -\partial_\nu\partial_\mu h^{\gamma\delta}\partial_\gamma h^\nu_\delta - \square h^{\gamma\delta}\partial_\gamma h_{\mu\delta} - \partial^\nu h^{\gamma\delta}\partial_\nu\partial_\gamma h_{\mu\delta} \\
&\quad + (\partial h)^\alpha\partial_\mu(\partial h)_\alpha + \partial_\nu(\partial h)^\alpha\partial^\nu h_{\alpha\mu} + (\partial h)^\alpha\square h_{\alpha\mu} \\
&\quad + \partial_\nu h^{\alpha\beta}\partial_\alpha\partial_\mu h_\beta^\nu + h^{\alpha\beta}\partial_\alpha\partial_\mu(\partial h)_\beta + \partial_\nu h^{\alpha\beta}\partial_\alpha\partial^\nu h_{\beta\mu} + h^{\alpha\beta}\partial_\alpha\square h_{\beta\mu} \\
&\quad + 2\partial_\nu\partial_\gamma h_\mu^\alpha\partial_\alpha h^{\gamma\nu} + 3\partial_\gamma h_\mu^\alpha\partial_\alpha(\partial h)^\gamma + h_\mu^\alpha\partial_\alpha(\partial\partial h) \\
&\quad + h^{\nu\alpha}\partial_\nu\partial_\alpha(\partial h)_\mu, \tag{7.67}
\end{aligned}$$

$$\begin{aligned}
(\partial\mathcal{X}_{[7]})_\mu &= -2\partial_\nu\partial_\gamma h_\mu^\delta\partial^\gamma h^\nu_\delta - 2\partial_\gamma h_\mu^\delta\partial^\gamma(\partial h)_\delta + 4\partial_\nu\partial_\gamma h_{\mu\beta}\partial^\gamma h^{\beta\nu} + 4\partial_\gamma h_{\mu\beta}\partial^\gamma(\partial h)^\beta \\
&\quad + 2\partial_\nu h_{\mu\beta}\square h^{\beta\nu} + 2h_{\mu\beta}\square(\partial h)^\beta + 2(\partial h)_\beta\square h^\beta_\mu + 2h^\nu_\beta\partial_\nu\square h^\beta_\mu \\
&= -2\partial_\nu\partial_\gamma h_\mu^\delta\partial^\gamma h^\nu_\delta + 4\partial_\nu\partial_\gamma h_{\mu\beta}\partial^\gamma h^{\beta\nu} + 2\partial_\gamma h_{\mu\beta}\partial^\gamma(\partial h)^\beta \\
&\quad + 2\partial_\nu h_{\mu\beta}\square h^{\beta\nu} + 2h_{\mu\beta}\square(\partial h)^\beta + 2(\partial h)_\beta\square h^\beta_\mu + 2h^\nu_\beta\partial_\nu\square h^\beta_\mu, \tag{7.68}
\end{aligned}$$

$$\begin{aligned}
(\partial\mathcal{X}_{[8]})_\mu &= -2\partial_\nu\partial_\gamma h_\mu^\delta\partial_\delta h^{\nu\gamma} - 2\partial_\gamma h_\mu^\delta\partial_\delta(\partial h)^\gamma + 2\partial_\nu\partial_\gamma h_{\mu\beta}\partial^\nu h^{\beta\gamma} + 2\partial_\gamma h_{\mu\beta}\square h^{\beta\gamma} \\
&\quad + 2\partial_\gamma(\partial h)_\beta\partial_\mu h^{\beta\gamma} + 2\partial_\gamma h^\nu_\beta\partial_\nu\partial_\mu h^{\beta\gamma} + 2\partial_\nu h_{\mu\beta}\partial^\nu(\partial h)^\beta + 2h_{\mu\beta}\square(\partial h)^\beta \\
&\quad + 2(\partial h)_\beta\partial_\mu(\partial h)^\beta + 2h^\nu_\beta\partial_\nu\partial_\mu(\partial h)^\beta, \tag{7.69}
\end{aligned}$$

$$\begin{aligned}
(\partial\mathcal{X}_{[9]})_\mu &= 2\partial_\mu\partial_\gamma h_{\alpha\beta}\partial^\alpha h^{\beta\gamma} + 2\partial_\gamma h_{\alpha\beta}\partial_\mu\partial^\alpha h^{\beta\gamma} + 2\partial_\mu h^{\alpha\beta}\partial_\alpha(\partial h)_\beta + 2h^{\alpha\beta}\partial_\mu\partial_\alpha(\partial h)_\beta \\
&\quad - \partial_\nu\partial_\gamma h\partial_\mu h^{\nu\gamma} - \partial_\gamma h\partial_\mu(\partial h)^\gamma - \partial_\nu\partial_\gamma h\partial^\nu h_\mu^\gamma - \partial_\gamma h\square h_\mu^\gamma \\
&\quad + \partial_\nu(\partial h)_\mu\partial^\nu h + (\partial h)_\mu\square h + (\partial\partial h)\partial_\mu h + (\partial h)^\nu\partial_\nu\partial_\mu h \\
&\quad + \partial_\nu h^\alpha_\mu\partial_\alpha\partial^\nu h + h^\alpha_\mu\partial_\alpha\square h + (\partial h)^\alpha\partial_\alpha\partial_\mu h + h^{\alpha\nu}\partial_\nu\partial_\alpha\partial_\mu h \\
&= 2\partial_\mu\partial_\gamma h_{\alpha\beta}\partial^\alpha h^{\beta\gamma} + 2\partial_\gamma h_{\alpha\beta}\partial_\mu\partial^\alpha h^{\beta\gamma} + 2\partial_\mu h^{\alpha\beta}\partial_\alpha(\partial h)_\beta + 2h^{\alpha\beta}\partial_\mu\partial_\alpha(\partial h)_\beta \\
&\quad - \partial_\nu\partial_\gamma h\partial_\mu h^{\nu\gamma} - \partial_\gamma h\partial_\mu(\partial h)^\gamma - \partial_\gamma h\square h_\mu^\gamma \\
&\quad + \partial_\nu(\partial h)_\mu\partial^\nu h + (\partial h)_\mu\square h + (\partial\partial h)\partial_\mu h + 2(\partial h)^\nu\partial_\nu\partial_\mu h \\
&\quad + h^\alpha_\mu\partial_\alpha\square h + h^{\alpha\nu}\partial_\nu\partial_\alpha\partial_\mu h, \tag{7.70}
\end{aligned}$$

$$\begin{aligned}
(\partial\mathcal{X}_{[10]})_\mu &= 4\partial_\gamma h_{\alpha\beta}\partial_\mu\partial^\gamma h^{\alpha\beta} + 2\partial_\mu h_{\alpha\beta}\square h^{\alpha\beta} + 2h_{\alpha\beta}\partial_\mu\square h^{\alpha\beta} \\
&\quad + 2(\partial h)_\mu\square h + 2h^\nu_\mu\partial_\nu\square h, \tag{7.71}
\end{aligned}$$

$$\begin{aligned}
(\partial\mathcal{X}_{[11]})_\mu &= 2\partial_\nu\partial_\mu h\partial^\nu h + 2\partial_\mu h\square h + 2\partial_\nu h\partial_\mu\partial^\nu h + 2h\partial_\mu\square h + 2\partial_\mu h(\partial\partial h) + 2h\partial_\mu(\partial\partial h) \\
&= 4\partial^\nu h\partial_\nu\partial_\mu h + 2\partial_\mu h\square h + 2h\partial_\mu\square h + 2\partial_\mu h(\partial\partial h) + 2h\partial_\mu(\partial\partial h), \tag{7.72}
\end{aligned}$$

$$\begin{aligned}
(\partial\mathbf{X}_{[12]})_\mu &= -\partial_\mu(\partial h)^\gamma(\partial h)_\gamma - \partial_\mu h^{\nu\gamma}\partial_\nu(\partial h)_\gamma - \square h_\mu^\gamma(\partial h)_\gamma - \partial^\nu h_\mu^\gamma\partial_\nu(\partial h)_\gamma \\
&\quad + 2\partial_\nu(\partial h)_\mu(\partial h)^\nu + 2(\partial h)_\mu(\partial\partial h) + \partial_\nu h_\mu^\beta\partial_\beta(\partial h)^\nu + h_\mu^\beta\partial_\beta(\partial\partial h) \\
&\quad + (\partial h)^\beta\partial_\beta(\partial h)_\mu + h^{\nu\beta}\partial_\nu\partial_\beta(\partial h)_\mu + \partial_\nu\partial_\mu h^{\alpha\beta}\partial_\beta h^\nu_\alpha + \partial_\mu h^{\alpha\beta}\partial_\beta(\partial h)_\alpha \\
&\quad + \square h^{\alpha\beta}\partial_\beta h_{\mu\alpha} + \partial^\nu h^{\alpha\beta}\partial_\nu\partial_\beta h_{\mu\alpha} + \partial_\nu h^{\alpha\beta}\partial_\beta\partial_\mu h^\nu_\alpha + h^{\alpha\beta}\partial_\beta\partial_\mu(\partial h)_\alpha \\
&\quad + \partial_\nu h^{\alpha\beta}\partial_\beta\partial^\nu h_{\mu\alpha} + h^{\alpha\beta}\partial_\beta\square h_{\mu\alpha} \\
&= -\partial_\mu(\partial h)^\gamma(\partial h)_\gamma - \square h_\mu^\gamma(\partial h)_\gamma - \partial^\nu h_\mu^\gamma\partial_\nu(\partial h)_\gamma \\
&\quad + 3\partial_\nu(\partial h)_\mu(\partial h)^\nu + 2(\partial h)_\mu(\partial\partial h) + \partial_\nu h_\mu^\beta\partial_\beta(\partial h)^\nu + h_\mu^\beta\partial_\beta(\partial\partial h) \\
&\quad + h^{\nu\beta}\partial_\nu\partial_\beta(\partial h)_\mu + 2\partial_\nu\partial_\mu h^{\alpha\beta}\partial_\beta h^\nu_\alpha \\
&\quad + \square h^{\alpha\beta}\partial_\beta h_{\mu\alpha} + 2\partial^\nu h^{\alpha\beta}\partial_\nu\partial_\beta h_{\mu\alpha} + h^{\alpha\beta}\partial_\beta\partial_\mu(\partial h)_\alpha \\
&\quad + h^{\alpha\beta}\partial_\beta\square h_{\mu\alpha}, \tag{7.73}
\end{aligned}$$

$$\begin{aligned}
(\partial\mathbf{X}_{[13]})_\mu &= 4(\partial h)^\alpha\partial_\mu(\partial h)_\alpha + 2\partial_\mu h^{\alpha\beta}\partial_\alpha(\partial h)_\beta + 2h^{\alpha\beta}\partial_\mu\partial_\alpha(\partial h)_\beta \\
&\quad - \partial_\nu\partial_\mu h(\partial h)^\nu - \partial_\mu h(\partial\partial h) - \square h(\partial h)_\mu - \partial^\nu h\partial_\nu(\partial h)_\mu \\
&\quad + \partial_\mu(\partial h)^\alpha\partial_\alpha h + \partial_\mu h^{\alpha\nu}\partial_\nu\partial_\alpha h + \square h^\alpha_\mu\partial_\alpha h + \partial^\nu h^\alpha_\mu\partial_\nu\partial_\alpha h \\
&\quad + (\partial h)^\alpha\partial_\mu\partial_\alpha h + h^{\alpha\nu}\partial_\nu\partial_\mu\partial_\alpha h + \partial_\nu h^\alpha_\mu\partial^\nu\partial_\alpha h + h^\alpha_\mu\square\partial_\alpha h \\
&= 4(\partial h)^\alpha\partial_\mu(\partial h)_\alpha + 2\partial_\mu h^{\alpha\beta}\partial_\alpha(\partial h)_\beta + 2h^{\alpha\beta}\partial_\mu\partial_\alpha(\partial h)_\beta \\
&\quad - \partial_\nu\partial_\mu h(\partial h)^\nu - \partial_\mu h(\partial\partial h) - \square h(\partial h)_\mu - \partial^\nu h\partial_\nu(\partial h)_\mu \\
&\quad + \partial_\mu(\partial h)^\alpha\partial_\alpha h + \partial_\mu h^{\alpha\nu}\partial_\nu\partial_\alpha h + \square h^\alpha_\mu\partial_\alpha h + 2\partial^\nu h^\alpha_\mu\partial_\nu\partial_\alpha h \\
&\quad + (\partial h)^\alpha\partial_\mu\partial_\alpha h + h^{\alpha\nu}\partial_\nu\partial_\mu\partial_\alpha h + h^\alpha_\mu\square\partial_\alpha h, \tag{7.74}
\end{aligned}$$

$$\begin{aligned}
(\partial\mathbf{X}_{[14]})_\mu &= 2(\partial h)_\mu(\partial\partial h) + 2h_\mu^\nu\partial_\nu(\partial\partial h) + 2\partial_\nu\partial_\mu h_{\alpha\beta}\partial^\nu h^{\alpha\beta} + 2\partial_\mu h_{\alpha\beta}\square h^{\alpha\beta} \\
&\quad + 2\partial_\nu h_{\alpha\beta}\partial_\mu\partial^\nu h^{\alpha\beta} + 2h_{\alpha\beta}\partial_\mu\square h^{\alpha\beta} \\
&= 2(\partial h)_\mu(\partial\partial h) + 2h_\mu^\nu\partial_\nu(\partial\partial h) + 4\partial^\nu h^{\alpha\beta}\partial_\nu\partial_\mu h_{\alpha\beta} + 2\partial_\mu h_{\alpha\beta}\square h^{\alpha\beta} \\
&\quad + 2h_{\alpha\beta}\partial_\mu\square h^{\alpha\beta}, \tag{7.75}
\end{aligned}$$

$$\begin{aligned}
(\partial\mathbf{X}_{[15]})_\mu &= -4(\partial h)_\alpha\partial_\mu(\partial h)^\alpha + 2\partial_\nu\partial_\mu h(\partial h)^\nu + 2\partial_\mu h(\partial\partial h) \\
&\quad + 2\square h(\partial h)_\mu + 2\partial^\nu h\partial_\nu(\partial h)_\mu + 2\partial_\nu h\partial_\mu(\partial h)^\nu + 2h\partial_\mu(\partial\partial h) \\
&\quad + 2\partial_\nu h\partial^\nu(\partial h)_\mu + 2h\square(\partial h)_\mu \\
&= -4(\partial h)_\alpha\partial_\mu(\partial h)^\alpha + 2\partial_\nu\partial_\mu h(\partial h)^\nu + 2\partial_\mu h(\partial\partial h) \\
&\quad + 2\square h(\partial h)_\mu + 4\partial^\nu h\partial_\nu(\partial h)_\mu + 2\partial_\nu h\partial_\mu(\partial h)^\nu + 2h\partial_\mu(\partial\partial h) \\
&\quad + 2h\square(\partial h)_\mu, \tag{7.76}
\end{aligned}$$

$$\begin{aligned}
(\partial\mathbf{X}_{[16]})_\mu &= -2\partial_\nu(\partial h)_\mu(\partial h)^\nu - 2(\partial h)_\mu(\partial\partial h) + 2\partial_\mu(\partial h)^\alpha(\partial h)_\alpha + 2\partial_\mu h^{\nu\alpha}\partial_\nu(\partial h)_\alpha \\
&\quad + 2\square h_\mu^\alpha(\partial h)_\alpha + 2\partial^\nu h_\mu^\alpha\partial_\nu(\partial h)_\alpha + 2(\partial h)^\alpha\partial_\mu(\partial h)_\alpha + 2h^{\nu\alpha}\partial_\nu\partial_\mu(\partial h)_\alpha \\
&\quad + 2\partial_\nu h_\mu^\alpha\partial^\nu(\partial h)_\alpha + 2h_\mu^\alpha\square(\partial h)_\alpha \\
&= -2\partial_\nu(\partial h)_\mu(\partial h)^\nu - 2(\partial h)_\mu(\partial\partial h) + 2\partial_\mu h^{\nu\alpha}\partial_\nu(\partial h)_\alpha \\
&\quad + 2\square h_\mu^\alpha(\partial h)_\alpha + 4\partial^\nu h_\mu^\alpha\partial_\nu(\partial h)_\alpha + 4(\partial h)^\alpha\partial_\mu(\partial h)_\alpha + 2h^{\nu\alpha}\partial_\nu\partial_\mu(\partial h)_\alpha \\
&\quad + 2h_\mu^\alpha\square(\partial h)_\alpha \tag{7.77}
\end{aligned}$$

である。

•を項とし、

$$\sum_{i=1}^{16} g_i (\partial \chi_{[i]})_{\mu} = \sum_{\bullet} C(\bullet) \bullet \quad (7.78)$$

と置く。 $C(\bullet)$ は係数である。34種類の項があるが、そのうち20種類について係数を調べてみる：

$$C(\partial_{\mu} h_{\alpha\beta} \square h^{\alpha\beta}) = -2g_5 + 2g_{10} + 2g_{14} = -2g, \quad (7.79)$$

$$C(h_{\alpha\beta} \partial_{\mu} \square h^{\alpha\beta}) = 2g_{10} + 2g_{14} = 0, \quad (7.80)$$

$$C(\partial_{\mu} h \square h) = 4g_1 - 2g_4 + 2g_{11} = 2g, \quad (7.81)$$

$$C(h \partial_{\mu} \square h) = 4g_1 + 2g_{11} = 0, \quad (7.82)$$

$$C((\partial h)_{\mu} \square h) = g_9 + 2g_{10} - g_{13} + 2g_{15} = -4g, \quad (7.83)$$

$$C(\partial_{\alpha} h_{\mu\beta} \square h^{\alpha\beta}) = -g_6 + 2g_7 + 2g_8 + g_{12} = 4g, \quad (7.84)$$

$$C(\partial_{\alpha} h \square h^{\alpha}_{\mu}) = 4g_2 + 2g_3 - g_9 + g_{13} = 0, \quad (7.85)$$

$$C(h \square (\partial h)_{\mu}) = 4g_2 + 2g_3 + 2g_{15} = 0, \quad (7.86)$$

$$C((\partial h)_{\mu} (\partial \partial h)) = 2g_{12} + 2g_{14} - 2g_{16} = 4g, \quad (7.87)$$

$$C(\partial_{\mu} h (\partial \partial h)) = g_9 + 2g_{11} - g_{13} + 2g_{15} = -2g, \quad (7.88)$$

$$C(\partial_{\mu} h_{\alpha\beta} \partial^{\alpha} (\partial h)^{\beta}) = 2g_8 + 2g_9 + 2g_{13} + 2g_{16} = 4g, \quad (7.89)$$

$$C(\partial_{\alpha} h_{\mu\beta} \partial^{\alpha} (\partial h)^{\beta}) = g_6 + 2g_7 + 2g_8 - g_{12} + 4g_{16} = -4g, \quad (7.90)$$

$$C(\partial_{\beta} h_{\mu\alpha} \partial^{\alpha} (\partial h)^{\beta}) = 4g_5 + 3g_6 - 2g_8 + g_{12} = -4g, \quad (7.91)$$

$$C((\partial h)^{\alpha} \partial_{\mu} (\partial h)_{\alpha}) = g_6 + 2g_8 - g_{12} + 4g_{13} - 4g_{15} + 4g_{16} = 0, \quad (7.92)$$

$$C(h \partial_{\mu} (\partial \partial h)) = 2g_3 + 2g_{11} + 2g_{15} = 0, \quad (7.93)$$

$$C(\partial_{\mu} h^{\alpha\beta} \partial_{\alpha} \partial_{\beta} h) = 2g_3 + 4g_4 - g_9 + g_{13} = -2g, \quad (7.94)$$

$$C(\partial^{\alpha} h^{\beta}_{\mu} \partial_{\alpha} \partial_{\beta} h) = 4g_2 + 2g_3 + 2g_{13} = 4g, \quad (7.95)$$

$$C(\partial_{\alpha} h \partial^{\alpha} \partial_{\mu} h) = 4g_1 - 2g_4 + 4g_{11} = 0, \quad (7.96)$$

$$C(\partial^{\alpha} h \partial_{\alpha} (\partial h)_{\mu}) = 4g_2 + 2g_3 + g_9 - g_{13} + 4g_{15} = 0, \quad (7.97)$$

$$C(h^{\alpha\beta} \partial_{\mu} \partial_{\alpha} \partial_{\beta} h) = 4g_4 + g_9 + g_{13} = 0. \quad (7.98)$$

アインシュタイン作用から求めたラグランジアン密度 (8.64) は、これらを全て満たす。

金星人の立場では、上の連立方程式を解く必要があるが、この記事ではその作業は省略する。

## 8 アインシュタイン作用の展開

$$G := g^{\mu\nu} \left[ \Gamma^{\rho}_{\gamma\nu} \Gamma^{\gamma}_{\mu\rho} - \Gamma^{\rho}_{\gamma\rho} \Gamma^{\gamma}_{\mu\nu} \right] = -A, \quad (8.1)$$

$$S := \sqrt{-g} \quad (8.2)$$

と置く。 $\mathcal{L}_E = \frac{1}{2\kappa} SG$ である。

$h_{\mu\nu}$  について展開することを考える。今、

$$g^{\mu\nu} = \eta^{\mu\nu} + g_{(1)}^{\mu\nu} + g_{(2)}^{\mu\nu} + \dots \quad (8.3)$$

とする<sup>8)</sup>と、

$$\Gamma^{\lambda}_{\mu\nu} = {}^{(1)}\Gamma^{\lambda}_{\mu\nu} + {}^{(2)}\Gamma^{\lambda}_{\mu\nu} + {}^{(3)}\Gamma^{\lambda}_{\mu\nu} + \dots, \quad (8.4)$$

$${}^{(1)}\Gamma^{\lambda}_{\mu\nu} = \eta^{\lambda\sigma} \Gamma_{\sigma\mu\nu}, \quad (8.5)$$

$${}^{(2)}\Gamma^{\lambda}_{\mu\nu} = g_{(1)}^{\lambda\sigma} \Gamma_{\sigma\mu\nu}, \quad (8.6)$$

$${}^{(3)}\Gamma^{\lambda}_{\mu\nu} = g_{(2)}^{\lambda\sigma} \Gamma_{\sigma\mu\nu} \quad (8.7)$$

となる。

よく知られた公式

$$(A + B)^{-1} = A^{-1} - A^{-1}BA^{-1} + A^{-1}BA^{-1}BA^{-1} - \dots \quad (8.8)$$

より、

$$g_{(1)}^{\mu\nu} = -h^{\mu\nu}, \quad (8.9)$$

$$g_{(2)}^{\mu\nu} = h^{\mu}_{\rho} h^{\rho\nu} \quad (8.10)$$

である。 $h_{\mu\nu}$  の添え字は  $\eta^{\mu\nu}$  で上げた。

また、

$$\det(A) = \exp \operatorname{Tr} \ln A, \quad (8.11)$$

$$\begin{aligned} \det(A + B) &= \det(A) \det(1 + A^{-1}B) \\ &= \det(A) \exp \operatorname{Tr} \ln(1 + A^{-1}B) \\ &= \det(A) \exp \operatorname{Tr} \left[ A^{-1}B - \frac{1}{2} A^{-1}BA^{-1}B + \dots \right] \\ &= \det(A) \left( 1 + \operatorname{Tr}[A^{-1}B] - \frac{1}{2} \operatorname{Tr}[A^{-1}BA^{-1}B] + \frac{1}{2} (\operatorname{Tr}[A^{-1}B])^2 + \dots \right) \end{aligned} \quad (8.12)$$

である。よって、

$$\begin{aligned} \sqrt{-\det(A + B)} &= \sqrt{-\det(A)} \left( 1 + \frac{1}{2} \operatorname{Tr}[A^{-1}B] - \frac{1}{4} \operatorname{Tr}[A^{-1}BA^{-1}B] \right. \\ &\quad \left. + \left( \frac{1}{4} - \frac{1}{8} \right) (\operatorname{Tr}[A^{-1}B])^2 + \dots \right) \\ &= \sqrt{-\det(A)} \left( 1 + \frac{1}{2} \operatorname{Tr}[A^{-1}B] \right. \\ &\quad \left. + \frac{1}{8} \{ (\operatorname{Tr}[A^{-1}B])^2 - 2 \operatorname{Tr}[A^{-1}BA^{-1}B] \} + \dots \right) \end{aligned} \quad (8.13)$$

<sup>8)</sup>(n) は  $h_{\mu\nu}$  の n 次であることを表す。

となり、

$$S = 1 + S^{(1)} + S^{(2)} + \dots \quad (8.14)$$

と展開すると、

$$S^{(1)} = \frac{1}{2}h^\mu{}_\mu = \frac{1}{2}h, \quad (8.15)$$

$$S^{(2)} = \frac{1}{8}(h^2 - 2h^\mu{}_\nu h^\nu{}_\mu) \quad (8.16)$$

となる。

今、

$$\mathcal{L}_E = \mathcal{L}_E^{(2)} + \mathcal{L}_E^{(3)} + \dots \quad (8.17)$$

と展開すると、

$$\mathcal{L}_E^{(2)} = \frac{1}{2\kappa}G^{(2)}, \quad (8.18)$$

$$\begin{aligned} 2\kappa\mathcal{L}_E^{(3)} &= G^{(3)} + S^{(1)}G^{(2)} \\ &= G^{(3)} + \frac{1}{2}hG^{(2)} \end{aligned} \quad (8.19)$$

である。ここで、

$$G^{(3)} = G^{(3a)} + G^{(3b)}, \quad (8.20)$$

$$G^{(3a)} := \eta^{\mu\nu} \left[ {}^{(2)}\Gamma^\rho{}_{\gamma\nu} {}^{(1)}\Gamma^\gamma{}_{\mu\rho} + {}^{(1)}\Gamma^\rho{}_{\gamma\nu} {}^{(2)}\Gamma^\gamma{}_{\mu\rho} - {}^{(2)}\Gamma^\rho{}_{\gamma\rho} {}^{(1)}\Gamma^\gamma{}_{\mu\nu} - {}^{(1)}\Gamma^\rho{}_{\gamma\rho} {}^{(2)}\Gamma^\gamma{}_{\mu\nu} \right], \quad (8.21)$$

$$G^{(3b)} := -h^{\mu\nu} \left[ {}^{(1)}\Gamma^\rho{}_{\gamma\nu} {}^{(1)}\Gamma^\gamma{}_{\mu\rho} - {}^{(1)}\Gamma^\rho{}_{\gamma\rho} {}^{(1)}\Gamma^\gamma{}_{\mu\nu} \right] \quad (8.22)$$

である。また、

アインシュタインのラグランジアン密度を  $h_{\mu\nu}$  の3次まで展開する。

(8.19), (8.21), (8.22), (7.13) より、

$$\mathcal{L}^{(3)} \stackrel{w}{=} \mathcal{L}_E^{(3)}, \quad (8.23)$$

$$\mathcal{L}_E^{(3)}/g = 4G^{(3)} + 2hG^{(2)} = \sum_{k=1}^7 \tilde{\mathcal{L}}_k, \quad (8.24)$$

$$G^{(3)} = G^{(3a)} + G^{(3b)}, \quad (8.25)$$

$$\begin{aligned} 4G^{(3a)} &= 4\eta^{\mu\nu} \left[ {}^{(2)}\Gamma^\rho{}_{\gamma\nu} {}^{(1)}\Gamma^\gamma{}_{\mu\rho} + {}^{(1)}\Gamma^\rho{}_{\gamma\nu} {}^{(2)}\Gamma^\gamma{}_{\mu\rho} - {}^{(2)}\Gamma^\rho{}_{\gamma\rho} {}^{(1)}\Gamma^\gamma{}_{\mu\nu} - {}^{(1)}\Gamma^\rho{}_{\gamma\rho} {}^{(2)}\Gamma^\gamma{}_{\mu\nu} \right] \\ &\equiv \tilde{\mathcal{L}}_1 + \tilde{\mathcal{L}}_2 + \tilde{\mathcal{L}}_3 + \tilde{\mathcal{L}}_4, \end{aligned} \quad (8.26)$$

$$\begin{aligned} 4G^{(3b)} &= -4h^{\mu\nu} \left[ {}^{(1)}\Gamma^\rho{}_{\gamma\nu} {}^{(1)}\Gamma^\gamma{}_{\mu\rho} - {}^{(1)}\Gamma^\rho{}_{\gamma\rho} {}^{(1)}\Gamma^\gamma{}_{\mu\nu} \right] \\ &\equiv \tilde{\mathcal{L}}_5 + \tilde{\mathcal{L}}_6, \end{aligned} \quad (8.27)$$

$$\tilde{\mathcal{L}}_7 := 2hG^{(2)} \quad (8.28)$$

である。  $g = 1/(8\kappa)$  である。今、  $a^{\mu\nu}, b^{\mu\nu}, c^{\mu\nu}$  を対称テンソルとし、

$$G_1(a, b, c) := 4a^{\mu\nu}b^{\rho\sigma}c^{\gamma\lambda}\Gamma_{\sigma\gamma\nu}\Gamma_{\lambda\mu\rho}, \quad (8.29)$$

$$G_2(a, b, c) := 4a^{\mu\nu}b^{\rho\sigma}c^{\gamma\lambda}\Gamma_{\sigma\gamma\rho}\Gamma_{\lambda\mu\nu} \quad (8.30)$$

とすると、

$$\tilde{\mathcal{L}}_1 = -G_1(\eta, h, \eta), \quad (8.31)$$

$$\tilde{\mathcal{L}}_2 = -G_1(\eta, \eta, h), \quad (8.32)$$

$$\tilde{\mathcal{L}}_5 = -G_1(h, \eta, \eta), \quad (8.33)$$

$$\tilde{\mathcal{L}}_3 = G_2(\eta, h, \eta), \quad (8.34)$$

$$\tilde{\mathcal{L}}_4 = G_2(\eta, \eta, h), \quad (8.35)$$

$$\tilde{\mathcal{L}}_6 = G_2(h, \eta, \eta), \quad (8.36)$$

$$\tilde{\mathcal{L}}_7 = \frac{1}{2}h[G_1(\eta, \eta, \eta) - G_2(\eta, \eta, \eta)] \quad (8.37)$$

となる。

まず  $G_1(a, b, c), G_2(a, b, c)$  を求める。定義より、

$$G_1(a, b, c) = a^{\mu\nu}b^{\rho\sigma}c^{\gamma\lambda}[\partial_\gamma h_{\sigma\nu} + \partial_\nu h_{\sigma\gamma} - \partial_\sigma h_{\gamma\nu}][\partial_\mu h_{\lambda\rho} + \partial_\rho h_{\lambda\mu} - \partial_\lambda h_{\mu\rho}], \quad (8.38)$$

$$\begin{aligned} G_2(a, b, c) &= a^{\mu\nu}b^{\rho\sigma}c^{\gamma\lambda}[\partial_\gamma h_{\sigma\rho} + \partial_\rho h_{\sigma\gamma} - \partial_\sigma h_{\gamma\rho}][\partial_\mu h_{\lambda\nu} + \partial_\nu h_{\lambda\mu} - \partial_\lambda h_{\mu\nu}] \\ &= a^{\mu\nu}b^{\rho\sigma}c^{\gamma\lambda}\partial_\gamma h_{\sigma\rho}[2\partial_\mu h_{\lambda\nu} - \partial_\lambda h_{\mu\nu}] \end{aligned} \quad (8.39)$$

である。さらに展開すると、

$$\begin{aligned} G_1(a, b, c) &= a^{\mu\nu}b^{\rho\sigma}c^{\gamma\lambda}\partial_\gamma h_{\sigma\nu}\partial_\mu h_{\lambda\rho} + a^{\mu\nu}b^{\rho\sigma}c^{\gamma\lambda}\partial_\gamma h_{\sigma\nu}\partial_\rho h_{\lambda\mu} - a^{\mu\nu}b^{\rho\sigma}c^{\gamma\lambda}\partial_\gamma h_{\sigma\nu}\partial_\lambda h_{\mu\rho} \\ &\quad + a^{\mu\nu}b^{\rho\sigma}c^{\gamma\lambda}\partial_\nu h_{\sigma\gamma}\partial_\mu h_{\lambda\rho} + a^{\mu\nu}b^{\rho\sigma}c^{\gamma\lambda}\partial_\nu h_{\sigma\gamma}\partial_\rho h_{\lambda\mu} - a^{\mu\nu}b^{\rho\sigma}c^{\gamma\lambda}\partial_\nu h_{\sigma\gamma}\partial_\lambda h_{\mu\rho} \\ &\quad - a^{\mu\nu}b^{\rho\sigma}c^{\gamma\lambda}\partial_\sigma h_{\gamma\nu}\partial_\mu h_{\lambda\rho} - a^{\mu\nu}b^{\rho\sigma}c^{\gamma\lambda}\partial_\sigma h_{\gamma\nu}\partial_\rho h_{\lambda\mu} + a^{\mu\nu}b^{\rho\sigma}c^{\gamma\lambda}\partial_\sigma h_{\gamma\nu}\partial_\lambda h_{\mu\rho}, \end{aligned} \quad (8.40)$$

$$G_2(a, b, c) = 2a^{\mu\nu}b^{\rho\sigma}c^{\gamma\lambda}\partial_\gamma h_{\sigma\rho}\partial_\mu h_{\lambda\nu} - a^{\mu\nu}b^{\rho\sigma}c^{\gamma\lambda}\partial_\gamma h_{\sigma\rho}\partial_\lambda h_{\mu\nu} \quad (8.41)$$

である。

よって、

$$\begin{aligned} G_1(\eta, \eta, \eta) &= \partial_\gamma h_\sigma^\mu \partial_\mu h^{\gamma\sigma} + \partial_\gamma h_{\sigma\mu} \partial^\sigma h^{\gamma\mu} - \partial_\gamma h_{\sigma\mu} \partial^\gamma h^{\mu\sigma} \\ &\quad + \partial^\mu h_{\sigma\gamma} \partial_\mu h^{\gamma\sigma} + \partial^\mu h_{\sigma\gamma} \partial^\sigma h^\gamma_\mu - \partial^\mu h_{\sigma\gamma} \partial^\gamma h_{\mu\sigma} \\ &\quad - \partial^\sigma h^{\gamma\mu} \partial_\mu h_{\gamma\sigma} - \partial_\sigma h_{\gamma\mu} \partial^\sigma h^{\gamma\mu} + \partial_\sigma h_{\gamma\mu} \partial^\gamma h^{\mu\sigma} \\ &= (2') + (2') - (1) + (1) + (2') - (2') - (2') - (1) + (2') \\ &= 2(2') - (1) \end{aligned} \quad (8.42)$$

となる。ここで、

$$(1) := \partial_\alpha h_{\mu\nu} \partial^\alpha h^{\mu\nu}, \quad (8.43)$$

$$(2) := \partial_\mu h^{\mu\nu} \partial_\sigma h^\sigma_\nu \stackrel{\text{w}}{=} (2'), \quad (8.44)$$

$$(3) := \partial_\mu h^{\mu\nu} \partial_\nu h, \quad (8.45)$$

$$(4) := \partial_\mu h \partial^\mu h, \quad (8.46)$$

$$(2') := \partial_\sigma h_\mu^\nu \partial_\nu h^{\mu\sigma} \quad (8.47)$$

である。また、

$$\begin{aligned} G_2(\eta, \eta, \eta) &= 2\partial_\gamma h \partial_\mu h^{\gamma\mu} - \partial_\gamma h \partial^\gamma h \\ &= 2(3) - (4) \end{aligned} \quad (8.48)$$

である。よって、

$$\begin{aligned} G^{(2)} &= \frac{1}{4}[G_1(\eta, \eta, \eta) - G_2(\eta, \eta, \eta)] \\ &= \frac{1}{4}[-(1) + 2(2') - 2(3) + (4)] \end{aligned} \quad (8.49)$$

となる。

また、

$$\begin{aligned} \tilde{\mathcal{L}}_\gamma &= h[-\frac{1}{2}(1) + (2') - (3) + \frac{1}{2}(4)] \\ &= -\frac{1}{2}[2] + [3] - [11] + \frac{1}{2}[1] \end{aligned} \quad (8.50)$$

である。

また、

$$\begin{aligned} G_1(\eta, h, \eta) &= h^{\rho\sigma} \partial^\lambda h_{\sigma\mu} \partial^\mu h_{\lambda\rho} + h^{\rho\sigma} \partial_\gamma h_{\sigma\mu} \partial_\rho h^{\gamma\mu} - h^{\rho\sigma} \partial_\gamma h_{\sigma\mu} \partial^\gamma h_{\mu\rho} \\ &\quad + h^{\rho\sigma} \partial^\mu h_{\sigma\gamma} \partial_\mu h_{\rho\gamma} + h^{\rho\sigma} \partial_\mu h_{\sigma\gamma} \partial_\rho h^{\gamma\mu} - h^{\rho\sigma} \partial^\mu h_{\sigma\gamma} \partial^\gamma h_{\mu\rho} \\ &\quad - h^{\rho\sigma} \partial_\sigma h^{\gamma\mu} \partial_\mu h_{\gamma\rho} - h^{\rho\sigma} \partial_\sigma h_{\gamma\mu} \partial_\rho h^{\gamma\mu} + h^{\rho\sigma} \partial_\sigma h^{\gamma\mu} \partial_\gamma h_{\mu\rho} \\ &= [8] + [6] - [7] + [7] + [6] - [8] - [6] - [5] + [6] \\ &= -[5] + 2[6] \end{aligned} \quad (8.51)$$

および、

$$\begin{aligned} G_2(\eta, h, \eta) &= 2h^{\rho\sigma} \partial_\gamma h_{\sigma\rho} (\partial h)^\gamma - h^{\rho\sigma} \partial_\gamma h_{\sigma\rho} \partial^\gamma h \\ &= 2[14] - [10] \end{aligned} \quad (8.52)$$

である。また、

$$\begin{aligned} G_1(\eta, \eta, h) &= h^{\gamma\lambda} \partial_\gamma h^{\sigma\mu} \partial_\mu h_{\lambda\sigma} + h^{\gamma\lambda} \partial_\gamma h^{\sigma\mu} \partial_\sigma h_{\lambda\mu} - h^{\gamma\lambda} \partial_\gamma h^{\sigma\mu} \partial_\lambda h_{\mu\sigma} \\ &\quad + h^{\gamma\lambda} \partial^\mu h_{\sigma\gamma} \partial_\mu h_{\lambda\sigma} + h^{\gamma\lambda} \partial^\mu h_{\sigma\gamma} \partial^\sigma h_{\lambda\mu} - h^{\gamma\lambda} \partial_\mu h_{\sigma\gamma} \partial_\lambda h^{\mu\sigma} \\ &\quad - h^{\gamma\lambda} \partial^\sigma h_{\gamma\mu} \partial^\mu h_{\lambda\sigma} - h^{\gamma\lambda} \partial_\sigma h_{\gamma\mu} \partial^\sigma h_{\lambda\mu} + h^{\gamma\lambda} \partial_\sigma h_{\gamma\mu} \partial_\lambda h^{\mu\sigma} \\ &= [6] + [6] - [5] + [7] + [8] - [6] - [8] - [7] + [6] \\ &= -[5] + 2[6] \end{aligned} \quad (8.53)$$

および、

$$\begin{aligned} G_2(\eta, \eta, h) &= 2h^{\gamma\lambda} \partial_\gamma h (\partial h)_\lambda - h^{\gamma\lambda} \partial_\gamma h \partial_\lambda h \\ &= 2[13] - [4] \end{aligned} \quad (8.54)$$

となる。また、

$$\begin{aligned}
G_1(\eta, \eta, h) &= h^{\mu\nu} \partial_\gamma h_{\sigma\nu} \partial_\mu h^{\gamma\sigma} + h^{\mu\nu} \partial^\gamma h_{\sigma\nu} \partial^\sigma h_{\gamma\mu} - h^{\mu\nu} \partial_\gamma h_{\sigma\nu} \partial^\gamma h_\mu^\sigma \\
&\quad + h^{\mu\nu} \partial_\nu h_{\sigma\gamma} \partial_\mu h^{\gamma\sigma} + h^{\mu\nu} \partial_\nu h^{\sigma\gamma} \partial_\sigma h_{\gamma\mu} - h^{\mu\nu} \partial_\nu h^{\sigma\gamma} \partial_\gamma h_{\mu\sigma} \\
&\quad - h^{\mu\nu} \partial_\sigma h_{\gamma\nu} \partial_\mu h^{\gamma\sigma} - h^{\mu\nu} \partial_\sigma h_{\gamma\nu} \partial^\sigma h_\mu^\gamma + h^{\mu\nu} \partial^\sigma h_{\gamma\nu} \partial^\gamma h_{\mu\sigma} \\
&= [6] + [8] - [7] + [5] + [6] - [6] - [6] - [7] + [8] \\
&= [5] - 2[7] + 2[8]
\end{aligned} \tag{8.55}$$

および、

$$\begin{aligned}
G_2(\eta, \eta, h) &= 2h^{\mu\nu} \partial^\gamma h \partial_\mu h_{\gamma\nu} - h^{\mu\nu} \partial^\gamma h \partial_\gamma h_{\mu\nu} \\
&= 2[9] - [10]
\end{aligned} \tag{8.56}$$

となる。よって、

$$\tilde{\mathcal{L}}_1 = [5] - 2[6], \tag{8.57}$$

$$\tilde{\mathcal{L}}_2 = [5] - 2[6], \tag{8.58}$$

$$\tilde{\mathcal{L}}_5 = -[5] + 2[7] - 2[8], \tag{8.59}$$

$$\tilde{\mathcal{L}}_3 = 2[14] - [10], \tag{8.60}$$

$$\tilde{\mathcal{L}}_4 = 2[13] - [4], \tag{8.61}$$

$$\tilde{\mathcal{L}}_6 = 2[9] - [10], \tag{8.62}$$

$$\tilde{\mathcal{L}}_7 = -\frac{1}{2}[2] + [3] - [11] + \frac{1}{2}[1] \tag{8.63}$$

を得る。以上より、

$$\begin{aligned}
\mathcal{L}_E^{(3)}/g &= \sum_{k=1}^7 \tilde{\mathcal{L}}_k \\
&= \frac{1}{2}[1] - \frac{1}{2}[2] + [3] - [4] + [5] - 4[6] + 2[7] - 2[8] + 2[9] - 2[10] \\
&\quad - [11] + 2[13] + 2[14]
\end{aligned} \tag{8.64}$$

を得る。

文献 [9] には、背景時空の周りで、アインシュタインのラグランジアン密度を 4 次まで展開した表式が載っている。

## References

- [1] ファインマン, モリニーゴ, ワーグナー (著), 和田純夫 (訳) 『ファインマン講義重力の理論』 (岩波書店, 1999 年).
- [2] 和田純夫 『今度こそわかる重力理論』 (講談社, 2018 年).
- [3] 高橋康, 表實 『古典場から量子場への道 増補第 2 版』 (講談社, 2006 年).
- [4] Bert Janssen, “From Fierz-Pauli to Einstein-Hilbert: Gravity as a special relativistic field theory”, <http://www.ugr.es/~bjanssen/text/fierz-pauli.pdf>
- [5] Tomas Ortin, “Gravity and Strings”, Cambridge University Press (第 2 版, 2015 年).
- [6] Antonio Lopez-Pinto, “Nonstandard spin 2 field theory”, arXiv:gr-qc/0410069.
- [7] 内山龍雄 『相対性理論』 (岩波書店, 1977 年).
- [8] 中嶋慧 「アインシュタイン作用の変分」  
[http://physnakajima.html.xdomain.jp/Einstein\\_tensor.pdf](http://physnakajima.html.xdomain.jp/Einstein_tensor.pdf)
- [9] Marc H. Goroff, Augusto Sagnotti, “The ultraviolet behavior of Einstein gravity”, Nuclear Physics B **266**,709 (1986). [ [https://www.researchgate.net/publication/256600623\\_The\\_ultraviolet\\_behavior\\_of\\_Einstein\\_gravity](https://www.researchgate.net/publication/256600623_The_ultraviolet_behavior_of_Einstein_gravity)]